資　料　編

■第 2 次札幌市生涯学習推進構想素案に対する市民意見等の概要

札幌市では、平成 19 年 1 月 5 日に第 2 次札幌市生涯学習推進構想素案を公表し、これに対する市民の皆様からの意見募集を、1 月 5 日から 2 月 5 日まで行いました。

募集期間の 32 日間で 14 名（団体を含む）の市民の皆様から、ご持参、Fax、HP（ホームページ上の入力フォームから送信）により 24 件のご意見をいただきました。

この 24 件のご意見を整理した結果以下のとおりとなりました。

次ページ以降に、意見の概要とそれぞれの意見に対する札幌市の考え方を示しております。

第 5 章　基本施策Ⅰ：いきいきと学ぶ	4 件
第 6 章　基本施策Ⅱ：成果を活かす	4 件
第 7 章　基本施策Ⅲ：学びをつなぐ	6 件
第 8 章　構想の推進のために	2 件
※　意見が複数の箇所にわたるもの	6 件
※　感想、その他手続きに関するもの	2 件

第５章　基本施策Ⅰ：いきいきと学ぶ　　４件

（意見）生涯教育を市民が地域や社会に主体的にかかわりながら実践するために、成長段階の学習環境の充実を図ることは重要である。特に学齢期から青年期の「学ぶ力」の育成には非常に関心がある。家族形態の変化（例えば大家族から核家族）によって、必然的に学んできた「生きる知恵」が失われてきているのを感じずにはいられない。

また、ゆとり教育で失われた「確かな学力」を具体的にどのように伸ばしていくのか、本来ならばゆとりとして与えられた時間に生涯学習を組み込んでいくことが必要であったが、十分発揮できなかったではないだろうか。

今度の素案ではこの点を考慮してより具体的な対策を講じる必要があると思う。

（市の考え方）市民が地域や社会に主体的に関わりながら、自己を高め、豊かな人生を送るためには、それぞれの成長段階で求められる学習環境を充実していく必要性があると考えております。そのため、各段階で重点的に取り組むべき事項について積極的に対応し、学齢期においては、子どもたちの「学ぶ力」の育成に向け事業を展開していく必要があると考えております。

なお、本構想につきましては、本市の生涯学習の推進を図るための方向性とビジョンを示すものという位置付けで策定をしておりますので、今後、構想を具体化していく中で事業の実施について検討していきたいと考えております。

（意見）事業の例として、企業内教育を実施できない企業の従業員に対して、生涯学習のあり方、進め方を習熟する機会の提供を提案したい。

具体的には、区ごとで指導できる人（キャリア・コンサルタント）を事前に登録認定するとともに、指導力のレベル向上のための研修を行い、各区民センターで実施していく。

（市の考え方）働き方の多様化や、即戦力志向の高まりにより、時代の変化に対応できるよう専門的な知識や技術を主体的に習得し、自らの職業能力の向上に努めることが求められていると認識しております。

そのため、壮年期の人たちの職業能力を向上させるため、各種の研修・教育を多様な担い手により進めていきたいと考えております。ご提案につきましては、今後、具体的な事業を展開していくにあたって参考にさせていただきます。

（意見）事業の例として、これからの団塊の世代の退職による高齢者の増加に配慮して、現在、各区役所で実施している高齢者教室を拡充してはどうか。

（市の考え方）これからの高齢社会では、高齢者自身が社会や地域の重要な担い手としての活躍が期待されるため、高齢者ができるだけ自立した生活を送れるよう取り組みを進めることが重要と認識しています。

現在、区独自で高齢者を対象とした事業を展開している事例も見られるほか、地区センターなどにおいても高齢者向けの講座を実施しているところです。

こうした状況を踏まえ、各区の地域性を活かした事業を展開していく必要があると考えております。

（意見）高齢者のとらえ方が従来の加齢による視点だが、これからはEQに重点を置いた視点で施策を論ずるべきだと思う。団塊の世代を意識すればなおさらのことである。

（市の考え方）本構想では、それぞれの成長段階で求められる学習環境を充実していく必要があるとの認識のも

と、ライフステージの各段階で重点的に取り組むべき事柄を掲げ、高齢期の人たちについては健康づくり、生きがいづくりの支援を掲げているところです。

また、団塊の世代の大量退職の時期を迎え、地域における受け皿づくりや、この世代のもつ能力の継承・活用の方策など、これからの少子高齢社会に対応するため、ご意見の視点からの新たな施策展開について検討したいと考えております。

第６章　基本施策Ⅱ：成果を活かす　　４件

（意見）学習するということ、学ぶということからは行動の変容、行為の改良がもたらされなければならない。また、真の学習は営為の向上をもたらさずにはおかない。環境学習は、まさに家族ぐるみ、地域ぐるみの取組みであり、個人の責任としての学習の深化と他者との提携が必要ではないか。

（市の考え方）学習は、新しい知識や技術が獲得されることなどを通じて、意識・態度・行動等が変容することであるといえます。本構想では、市民の主体的な学びで得られた成果を、明日の札幌を支える人づくり、札幌のまちづくりに活かすことができるよう環境を整備するとしておりますが、学習を通じた他者との交流の結果として取り組まれることの多いボランティア活動や市民活動が大変重要であると考えております。

（意見）構想の具体化、実現に向けた意見として、これからの少子化・高齢化社会を支えるのは、行政や家庭だけでなく、地域住民の教育力をいかに高め、活性化させるかにかかっている。そのため、最初に地域の自治会・福祉・高齢者・ボランティア・スポーツ団体等の全てが、生涯学習の基本を認識する必要があり、行政は、側面から支援体制、特に教育行政サイドからの支援が不可欠ではないかと思う。

（市の考え方）本市では、市民によるまちづくりの推進という観点から、平成 18 年 10 月 3 日に自治基本条例を制定しました。今後、この条例の趣旨に基づき、まちづくりについて、市民が自ら学び、考えることができる環境づくりに向け、学習機会を充実していく必要があると認識しております。

そのため、コミュニティの活性化や特色ある地域社会づくりのための人材育成に、学びを活かす仕組みづくりを進めていきたいと考えており、素案にも盛り込んでいるところです。

（意見）学んだ成果を発表し、市民が討議・交流する機会を年一回以上、区単位に計画する、などと具体的に明示すべきではないか。

（市の考え方）学習成果を活かしたネットワークづくりのため、学習活動の発表や、学習者同士の交流の場や機会の充実を図ってまいります。なお、本構想につきましては、本市の生涯学習の推進を図るための方向性とビジョンを示すものという位置付けで策定をしておりますため、ご提案につきましては、今後具体的な事業を展開していくにあたって参考にさせていただきます。

（意見）ボランティア活動を続けているが、ボランティアと市民が交流する機会はこれまでなかった。そうした実態を調査分析して構想に生かすべきでは。

（市の考え方）ちえりあで開催しているボランティアメッセは、ご意見の趣旨で開催しているものと理解しています。今後、交流の場や機会の充実について検討していきたいと考えております。

第７章　基本施策Ⅲ：学びをつなぐ　　６件

（意見）「市民カレッジ」で学ぶような学習意欲のある人々には、生涯学習インストラクターのような制度が必要ではないか。
　その生涯学習インストラクターには、コーディネーターや相談員より責任を持って個別の学習相談、学習指導にあたってもらい、将来的には市立大学の講師待遇（非常勤）として処遇するというのはどうか。

（市の考え方）生涯学習に関する情報と市民の多様なニーズを結びつけるコーディネーターの役割の重要性から、その人材育成を進めていきたいと考えております。なお、本構想につきましては、本市の生涯学習の推進を図るための方向性とビジョンを示すものという位置付けで策定をしておりますため、ご提案につきましては、今後、構想を具体化していく中で検討したいと考えております。

（意見）「地域」の崩壊が叫ばれて久しく、地域の再生に向けて生涯学習を始めとして取り組みの強化が求められている。
　区民センター等のコミュニティ施設、学校などの拠点を有効に用いることが求められるが、魅力あるサークル、集いの場の設定なども必要である。地区センターにおける多様なサークルの設定、小学校における教師を活用した公開講座などがあればいいと思う。

（市の考え方）地域における施設が利用しやすいよう、さらなるサービスの向上に努めるとともに、地域の施設による「学び」のコミュニティの創造を進めていきたいと考えております。なお、本構想につきましては、本市の生涯学習の推進を図るための方向性とビジョンを示すものという位置付けで策定をしておりますため、ご提案につきましては、今後具体的な事業を展開していくにあたって参考にさせていただきます。

（意見）「さまざまな」と表現されているが、その中には地区センター、月寒公民館、また、多くの学校の開放図書館なども入っているのか。

（市の考え方）本構想では、地域における施設として、区民センター等のコミュニティ施設、児童会館、老人福祉センター、地区図書館を代表的な施設名称の例示として挙げ、それらの連携・協力を図っていくこととしています。
　地域における施設につきましては、ご意見の施設も含め、多種多様な施設が、それぞれの特色を活かした生涯学習関連事業を実施しているところです。

（意見）構想の具体化、実現に向け、地域の住民や活動団体がいつでも共用して使用できるコミュニティの拠点づくりが必要であり、その場所としては、まちづくりセンターや集会所のほかに、学校の空き教室の開放と研修設備の整備等が必要である。
　これは時代の趨勢であり、学校と地域住民との交流や住民による学校の支援体制づくりにも役立つものと確信している。

（市の考え方）それぞれの地域の特性を踏まえたまちづくりを展開していくため、まちづくりセンターと学校や生涯学習関連事業を展開するさまざまな施設との連携を強化していく必要があると考えております。なお、本構

想につきましては、本市の生涯学習の推進を図るための方向性とビジョンを示すものという位置付けで策定をしておりますので、ご提案につきましては、今後具体的な事業を展開していくにあたって参考にさせていただきます。

（意見）さまざまな教育機関における連携において、盲学校・聾学校・養護学校（特別支援学校）との各学校段階での校種を超えた学校間の連携強化も入れてもよいのではないだろうか。
その場合、事業の例として障がいのある幼児児童生徒や高齢者などとの交流活動の促進も入れてはどうか。

（市の考え方）本構想では、教育の連続性を考慮して、校種を超えた学校間の一層の連携強化を図ることとしておりますが、特別支援教育における学校間の連携、地域交流につきましても進めていく必要があると考えております。

【素案 25 ページを修正】

○　**さまざまな教育機関における連携**

教育の連続性を考慮し、幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校、高等学校と専修学校、大学などの校種を超えた学校間の一層の連携強化を図ります。また、地域で、ともにはぐくむ特別支援教育の推進に向けた学校間の連携を進めていきます。

あわせて、学校と専門的な研究機能を有する博物館、美術館などとの連携を進めていきます。

（意見）地区センター、学校の空き教室などを「市民カレッジ」の分教場にすること、「出前講座」といっても出前を誰が頼むのかが問題ではないか。

（市の考え方）本構想では、「さっぽろ市民カレッジ」の今後の展開につきまして、より身近な場所での学習環境の充実に向け、そのあり方を検討することとしております。
また、現在、本市をはじめさまざまな団体で出前講座が行われており、それらの情報の集約等による活用が必要と考えております。

第８章　構想の推進のために　　２件

（意見）推進に当たっての事業が単なる「事業の例」として提示され、具体的な事業主体、事業内容、学習対象、事業予算が明示されていないのは、今後の大きな課題であり、これらについて専門部会等を設置し、検討していくべきではないか。

（市の考え方）構想の関連事業については、本市の内部委員会である「札幌市生涯学習総合推進本部」がその実施状況を把握するとともに、社会教育委員会議が、行政外部の立場から評価・提言を行なうこととしております。
なお、本構想につきましては、本市の生涯学習の推進を図るための方向性とビジョンを示すものという位置付けで策定をしており、今後、その具体化に向け関連事業の整理を行っていきたいと考えております。

（意見）生涯学習推進検討会議委員の構成を見ても生涯学習で苦労をされてこられた方（学び手）が少ないように思う。社会教育委員の過半数を公募にしたらどうか。

（市の考え方）本構想では、社会教育委員会議は構想の実施状況について報告を受け、行政外部の立場から評価・

提言を行なうこととしておりますが、その際、市民の意見を取り入れていく必要から公募の検討について言及しているところです。
　社会教育委員の構成や職務につきましては、社会教育法に規定されており、今後、本構想における役割と法の趣旨に照らし、社会教育委員の公募について検討していきます。

※意見が複数の箇所にわたるもの　　6 件

（意見）生涯学習に参加できる率を上げるための方法として、時間別で気軽に参加でき、負担も少なく、身近にあるようなボランティア団体をつくることは有効である。
　そのため、①施設と団体、個人をつなぎ、②ボランティアを養成し、③会場や団体の調査を行う、などといった役割を担うコーディネーターの養成が、市が税金を出してまで行うべきことではないか。すぐれたコーディネーターがいれば、多くのボランティアが生まれ、成長できるが、施設のことをよく知り、ねばり強く交渉、調整できる人材は極めて少ない。

（市の考え方）生涯学習におけるボランティアやコーディネーターの役割については大変重要と認識しております。そのため、社会に主体的に参画するボランティア活動を支える学習について積極的に支援するとともに、生涯学習に関する情報と市民の多様なニーズを結びつけるコーディネーターの人材育成を進めていきたいと考えており、素案にも盛り込んでいるところです。

（意見）地域社会の中で、大人が持つ経験から得た知恵の継承を子どもたちへおこなうことができるような世代を超えた学習の機会が増えればと思う。

（市の考え方）地域で子どもを育てられるよう、異年齢の子どもや異世代の人々との関わりの中で、さまざまな体験の機会を提供していく必要があり、コミュニティの活性化や特色ある地域社会づくりのための人材育成に、学びを活かす仕組みづくりを進めていきたいと考えており、素案にも盛り込んでいるところです。
　なお、今後、具体的な事業の実施につきまして検討していきたいと考えております。

（意見）30 代 40 代の市民が、できれば勤務と生涯学習活動の両立ができるように配慮すべきであると考える。例えば、会社の有給をとりやすくすることや、あるいは勤務時間でも行けるようになるといいのではないか。
　この世代のうちに、心理ストレス教育や子育て（中高生）や高齢者介護についてなど、メンタルヘルス教育や家族支援などの講義が、大学教育レベルで受けられると、他の世代にも非常にいい影響を与えるのではないかと思う。また、この世代を十分にバックアップすることが、市民の生活意識や社会への関心の向上に直接つながるのではないだろうか。

（市の考え方）本構想では、社会活動の中心的な役割を担う時期であるとともに、家庭においては、親として未来を担う子どもたちへの教育を行っていく時期でもある壮年期において、職業能力や教育力の向上のための支援を進めていくこととしております。また、意欲のある市民が、入門的なものから高度なものまで段階的にレベルアップできるよう体制づくりを目指していくこととしております。
　今後、この世代におけるメンタルヘルス教育などにつきましても、多様な担い手により進めていく必要があると考えております。
　【素案 15 ページを修正】
　○　**壮年期の人たちの職業能力や教育力の向上に向けた支援**

心身ともに充実する壮年期は、働き盛りといわれ、社会活動の中心的な役割を担う時期であるとともに、家庭においては、親として未来を担う子どもたちへの教育を行っていく時期でもあります。

こうした仕事と子育ての両立を目指し、昨今はワーク・ライフ・バランス※という考え方も提唱されています。

このような状況を踏まえ、今後は、心身ともに健康的な生活を維持するとともに、職業能力を向上させるため、各種の研修・教育を多様な担い手により進めるとともに、親としての学習についても支援していきます。

また、生涯学習活動のための時間がなかなか取れないと感じる人々も多く見られることから、身近な場所での学習機会の提供等による支援を進めていきます。

【事業の例】

・大学等でのリカレント教育のための各種制度の充実
・インターネットの活用などによる施設サービスの向上
・心と身体の健康に関する学習機会の充実

（意見）NPO 代表者の立場から要望として、自分たちが進めている生涯学習、生涯スポーツを通じての市民の健康の維持ということを、構想の中に盛り込んで欲しい。

（市の考え方）素案にも記載しているところですが、高齢者ができるだけ自立した生活を送れるように、元気な高齢者づくりのための取り組みを実施するとともに、人生をより豊かに充実したものとし、健康な身体と豊かな心をはぐくむことにもつながるスポーツ・レクリエーション活動の振興に努めていく必要があると考えております。

（意見）生涯学習社会の基本理念は、学んだ成果（学習歴）の適正な評価・活用であることからすれば、例えば「生涯学習パスポート」制度など評価システムの構築についての記述が欠落しているように思う。

（市の考え方）本構想では、市民の主体的な学びによって得られた成果を、明日の札幌を支える人づくり、札幌のまちづくりに活かすことができるよう環境を整備するとともに、大学等高等教育機関との連携によるリカレント教育の推進により、札幌ならではの学びの高度化を目指していくこととしております。

（意見）これからは、更なる少子高齢化の進行や、特殊教育においても特別支援教育としての大きな制度変更へと向かうなどの動きに合わせると、やはり社会教育と社会福祉の一体化が更に求められる時代に入ると考える。

そうなると、今後取り組むべき分野として、「健康対策等高齢者への対応」に合わせた形で、「障がい者への学びの場の充実」を付け加えても良いのではないだろうか。

（市の考え方）本構想では、「健康対策等高齢者への対応」等、国において重点的に取り組むべき分野として指摘された項目について積極的に対応していくこととしておりますが、誰もが学習できるよう環境を整えることは、生涯学習社会において最も基本的なことであり、障がいのある市民も気軽に学習活動を行えるよう支援していく必要があると認識しております。

なお、今後、構想を具体化していく中で事業の実施について検討していきたいと考えております。

■第２次札幌市生涯学習推進構想策定経過

平成17年	7月～8月	市政世論調査で「生涯学習」について市民アンケートを実施
	8月～9月	生涯学習関連機関・団体調査実施
	9月5日	生涯学習総合推進本部会議（拡大局長会議） （策定方針説明）
	12月12日	生涯学習総合推進本部幹事会 （策定方針説明、今後のスケジュール、生涯学習の現状）
	12月14日	教育委員会会議 （策定方針、今後のスケジュールについて報告）
	12月16日	第1回生涯学習推進検討会議 （委嘱状交付、座長・副座長選出、審議概要説明、今後のスケジュール、生涯学習の現状）
平成18年	2月15日	第2回生涯学習推進検討会議 （生涯学習の現状（続き）、今後の課題）
	4月24日	第3回生涯学習推進検討会議 （課題解決に向けての基本的方向性の整理）
	7月7日	生涯学習総合推進本部関係課長会議 （構想の進捗状況と評価、生涯学習の現状と課題、今後の進め方）
	7月25日	生涯学習総合推進本部ワーキンググループ関係係長会議 （生涯学習推進の施策の方向性）
	9月20日	生涯学習総合推進本部ワーキンググループ関係係長会議 （生涯学習推進の施策の方向性（続き））
	10月6日	生涯学習総合推進本部ワーキンググループ関係係長会議 （生涯学習推進の施策体系）
	10月23日	生涯学習総合推進本部関係課長会議 （新たな生涯学習推進の施策・事業、今後のスケジュール）
	10月27日	第4回生涯学習推進検討会議 （新たな生涯学習推進の施策・事業、今後のスケジュール）
	11月14日	第5回生涯学習推進検討会議 （新たな生涯学習推進構想の素案検討）
	11月16日	教育委員会会議 （新たな構想の基本施策、スケジュール）
	12月1日	生涯学習総合推進本部関係課長会議 （新たな生涯学習推進構想の素案について）
	12月6日	生涯学習総合推進本部幹事会 （新たな生涯学習推進構想の策定について）
	12月14日	生涯学習総合推進本部会議 （新たな生涯学習推進構想の策定について）
	12月16日	札幌市生涯学習推進フォーラム
	12月22日	教育委員会会議 （第2次札幌市生涯学習推進構想素案について）
平成19年	1月5日 ～2月5日	パブリックコメントの実施 （第2次札幌市生涯学習推進構想素案について）
	2月21日	教育委員会会議 （第2次札幌市生涯学習推進構想素案に関するパブリックコメント手続の実施結果について）
	2月23日	第6回生涯学習推進検討会議 （第2次札幌市生涯学習推進構想素案に関するパブリックコメント手続の実施結果について）
	3月	第2次札幌市生涯学習推進構想策定

■札幌市生涯学習総合推進本部組織図

生涯学習総合推進本部

■役割
・市民の学習ニーズの把握と全市的調整
・生涯学習の推進にかかる重要事項の検討

■組織
・本部長　教育委員会を担当する副市長
・本部員　総務局長、市民まちづくり局長、市民まちづくり局理事、財政局長、保健福祉局長、子ども未来局長、環境局長、経済局長、観光文化局長、教育委員会担当の副市長が指名する区長、教育長、教育次長、教育委員会担当の副市長が指名する局長に準ずる職員　　計１３人
・主管本部員　教育長
・事務局　教育委員会生涯学習部生涯学習推進課

幹　事　会

■役割
・生涯学習関連施策の調整
・生涯学習関連施策の進捗状況の確認
・専門部会設置にかかる検討・調整
・総合推進本部に付議する事案の調整・協議

■組織
・幹事長　生涯学習部長
・幹　事　広報部長、国際部長、企画部長、地域振興部長、男女共同参画・市民活動室長、情報化推進部長、財政部長、（保）総務部長、（保）保健福祉部長、健康衛生部長、子ども育成部長、環境事業部長、環境都市推進部長、産業振興部長、雇用推進部長、農務部長、観光部長、文化部長、スポーツ部長、本部長が指名する市民部長、（教）総務部長、学校教育部長、学校教育部指導担当部長、中央図書館長、本部長が指名する部長に準ずる職員　計２５人
・事務局　教育委員会生涯学習部生涯学習推進課

■札幌市生涯学習推進検討会議設置要綱

（平成 17 年 7 月 14 日
教　育　長　決　裁）

（目的）

第 1 条　本市における新たな生涯学習推進構想（以下、「構想」という。）の策定にあたり、生涯学習の推進方策について、幅広い市民の意見と各方面の専門的な見識を反映させた検討を行うため、札幌市生涯学習推進検討会議（以下、「検討会議」という。）を設置する。

（組織等）

第 2 条　検討会議は、15 名以内の委員で組織する。

2　委員は、社会教育委員、その他有識者、公募による市民など教育長が適当と認める者の中から、教育長が委嘱する。

（任期）

第 3 条　委員の任期は、委嘱の日から 1 年とする。ただし、特別の事情のあるときはこの限りではない。

2　委員が欠けたときは、必要に応じて委員を補充するものとし、任期は前任者の残任期間とする。

（座長及び副座長）

第 4 条　検討会議に座長及び副座長各１名を置き、座長は委員の互選とし、副座長は座長が指名する。

2　座長は、検討会議を総括する。

3　副座長は座長を補佐し、座長に事故のあるときは、その職務を代理し、座長が欠けたときは、その職務を行う。

（会議）

第 5 条　検討会議は、座長が招集する。

2　検討会議は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3　検討会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは座長の決するところによる。

4　会議は公開とする。ただし、必要と認めるときは、委員の過半数の同意により、座長は会議を非公開とすることができる。

（意見の聴取及び資料提出）

第 6 条　座長は、検討を進めるにあたり必要があると認めるときは、検討会議において関係者の出席を求め、その意見、説明又は資料の提出を求めることができる。

（謝礼）

第 7 条　委員に対して、会議 1 回の参加につき謝礼として 12,500 円を支給する。

（事務局）

第 8 条　検討会議の事務局を、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課に置く。

（補則）

第 9 条　この要綱に定めるもののほか、検討会議に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

1　この要綱は、平成 17 年 7 月 29 日から施行する。

2　検討会議の最初の会議は、第 5 条の規定にかかわらず、教育長が招集する。

■札幌市生涯学習推進検討会議委員名簿

平成 17 年 12 月 16 日～平成 19 年 3 月 31 日

氏　名	所　　属	区　分	備　考
小川（おがわ）　克夫（かつお）	札幌市中学校長会　副会長 札幌市立東月寒中学校　校長	社会教育委員	H18年4月28日～
梶井（かじい）　祥子（しょうこ）	北海道武蔵女子短期大学　助教授	社会教育委員	
木村（きむら）　純（まこと）	北海道大学高等教育機能開発総合センター　教授	社会教育委員	副座長
栗原（くりはら）　清昭（きよあき）	札幌市PTA協議会　会長	社会教育委員	
小泉（こいずみ）　佳子（よしこ）	ザ･フレンドシップ･フォース･オブ札幌　副会長	有識者	
柴田（しばた）　義弘（よしひろ）	札幌市中学校長会　副会長 札幌市立陵陽中学校　校長	社会教育委員	～H18年4月27日
武井（たけい）　昭也（あきや）	札幌国際大学社会学部　教授	社会教育委員	
竹尾（たけお）　昌己（まさみ）	（公募委員）	公　募	
田島（たじま）　貴裕（たかひろ）	（公募委員）	公　募	
鶴羽（つるは）　佳子（よしこ）	（有）オフィス鶴羽　代表取締役	社会教育委員	
戸田（とだ）　まり	北海道教育大学札幌校　助教授	社会教育委員	
鍋田（なべた）　ひとみ	（公募委員）	公　募	
久村（ひさむら）　正也（まさや）	札幌心身医療研究所　所長／医師 NPO法人勤労者心の健康づくり協会　会長	社会教育委員	座　長
宮﨑（みやざき）　善昭（よしあき）	（財）北海道YMCA　総主事 （社）北海道私立専修学校・各種学校連合会　常任理事	社会教育委員	
吉田（よしだ）　聡子（さとこ）	㈱ 桐光ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ　代表取締役	有識者	
渡辺（わたなべ）　知樹（ともき）	札幌市小学校長会　事務局長 札幌市立幌南小学校　校長	社会教育委員	

（敬称略、50音順）

■札幌市生涯学習推進フォーラム

「今、生涯学習に求められているものとは？」をテーマに、生涯学習に関わる有識者、活動の実践者による講演や討論を通じて、「生涯学習」についての市民の理解を深めることを目的に開催しました。

〇開催日時

平成 18 年（2006 年）12 月 16 日（土）　13 時 30 分～16 時

〇開催場所

札幌市生涯学習総合センター（ちえりあ）6 階　講堂

〇プログラム

・基調講演「生涯学習政策の動向と今後の展望」

【講師】

笹井　宏益　氏（国立教育政策研究所総括研究官）

・パネルディスカッション「時代が求める生涯学習の役割とは？」

【パネリスト】

笹井　宏益　氏（国立教育政策研究所総括研究官）

田中　隆子　氏（札幌リーディングサービスグループ会長）

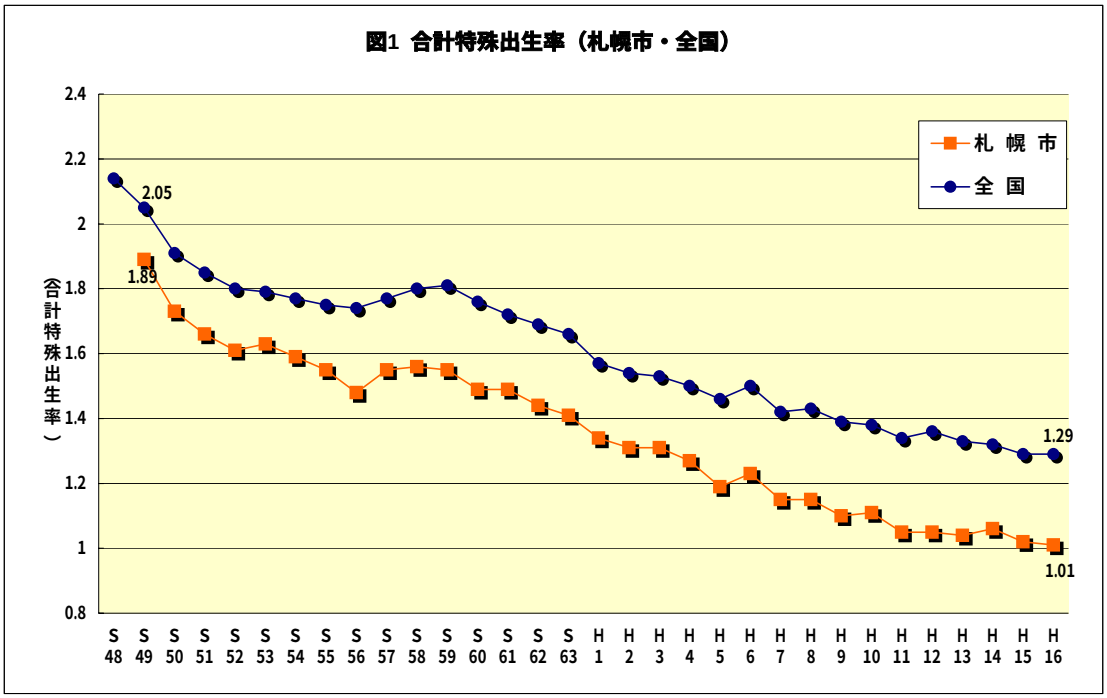
林　美香子　氏（フリーキャスター）

久村　正也　氏（医師、札幌市生涯学習推進検討会議座長）

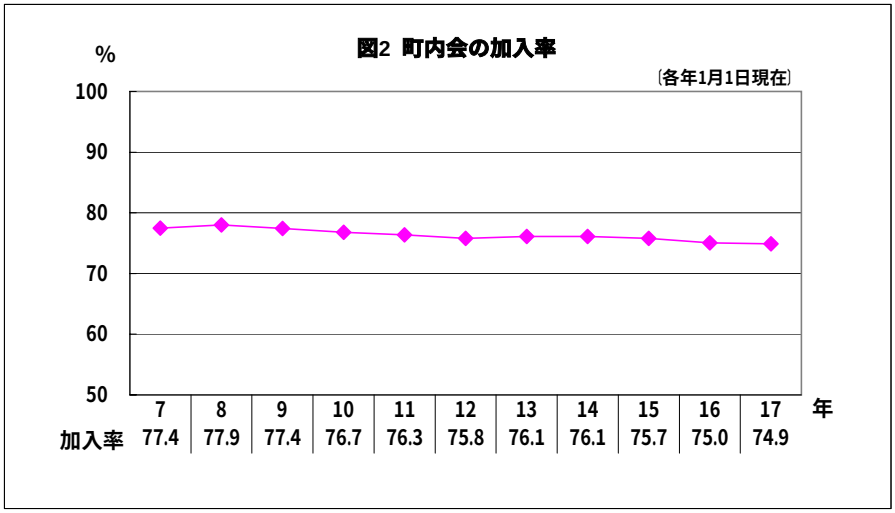
【コーディネーター】

木村　　純　　氏（北海道大学教授、札幌市生涯学習推進検討会議副座長）

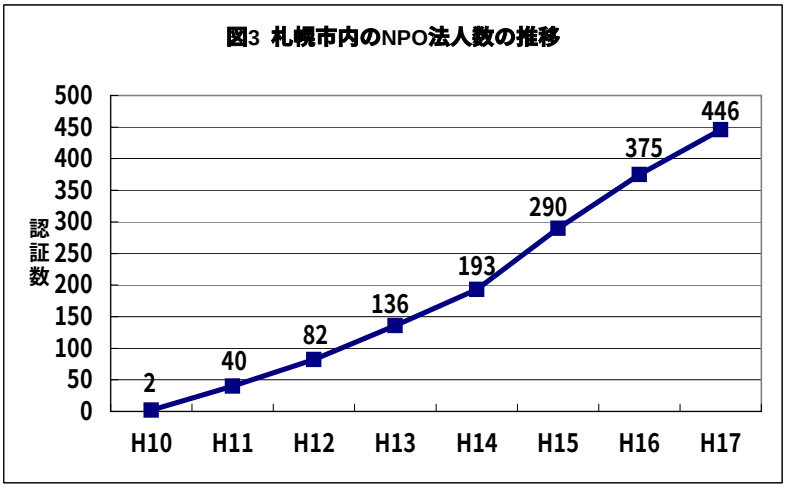
■各種統計資料



（資料：札幌市「衛生年報」、厚生労働省「人口動態統計」）



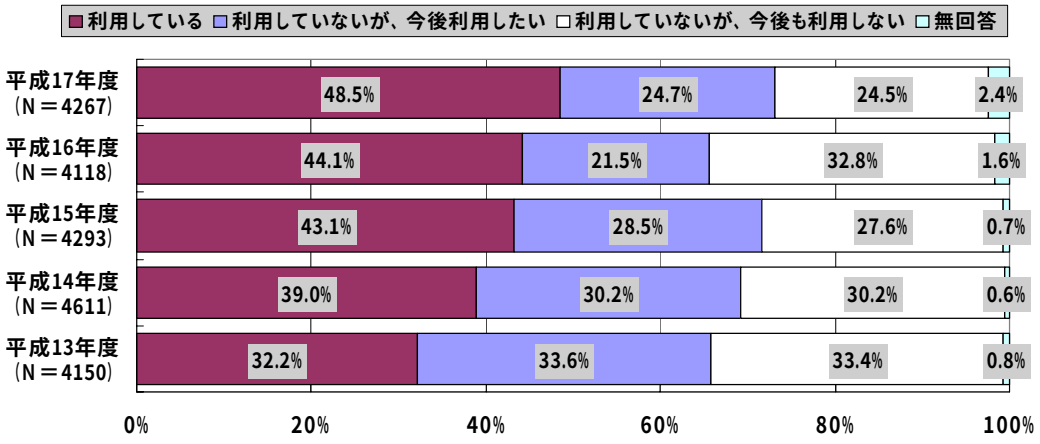
（資料：札幌市）



（資料：北海道）

図4 インターネット利用状況

【5ヵ年比較】



（単位：%）

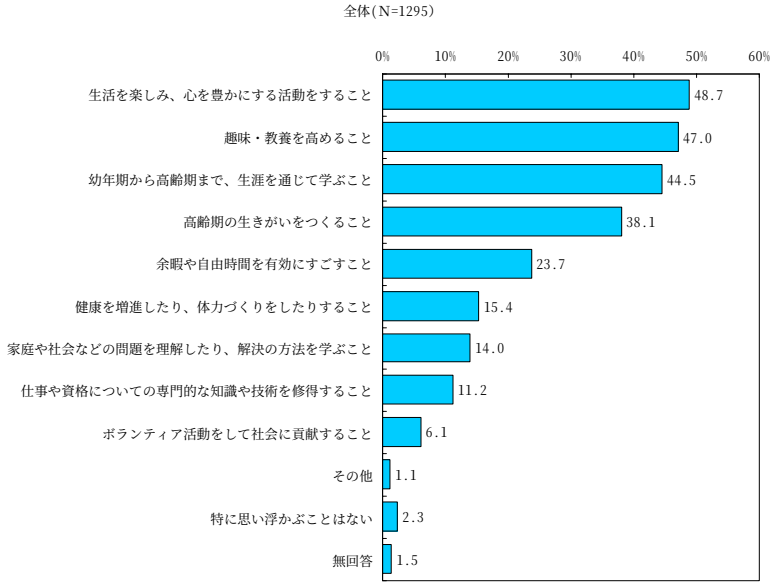
	《性別》		《年代別》						《全体》
	男性	女性	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
利用している	52.3	46.2	84.8	78.7	70.0	43.3	21.0	7.7	48.5
利用していないが、今後利用したい	24.5	24.8	10.1	16.7	20.7	33.0	32.7	24.5	24.6
利用していないが、今後も利用しない	21.2	26.6	4.5	4.1	9.0	22.0	43.7	59.7	24.5
無回答	2.0	2.4	0.6	0.6	0.3	1.7	2.6	8.1	2.4

（資料：札幌市「平成17年度第1回市民アンケート」）

■平成17年度札幌市市政世論調査（抜粋）

【調査実施の概要】
◇調査対象者　　層化2段無作為抽出法で選んだ札幌市全域の20歳以上の男女1,500人
◇調査方法　　個別訪問質問紙留置法
◇調査期間　　平成17年（2005年）7月28日（木）～8月12日（金）
◇回収数（率）　1,295件（86.3%）

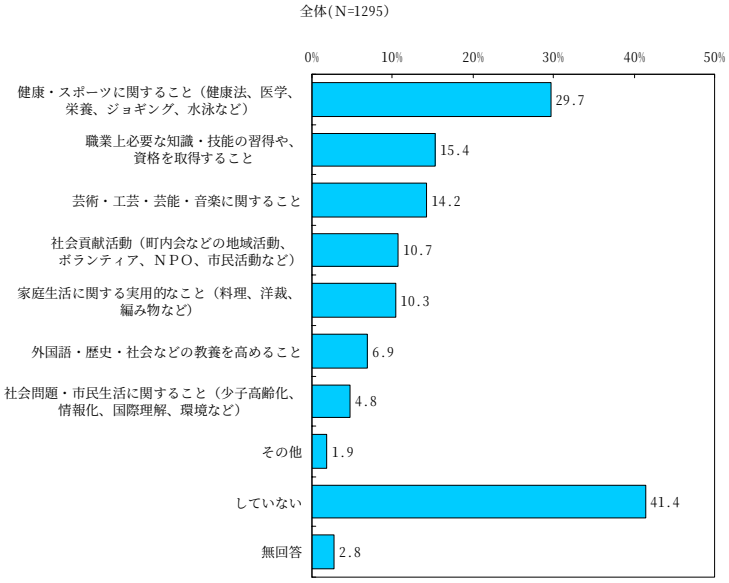
図5-1　「生涯学習」という言葉のイメージ（複数回答）



	サンプル数	幼年期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと	高齢期の生きがいをつくること	趣味・教養を高めること	健康を増進したり、体力づくりをしたりすること	仕事や資格についての専門的な知識や技術を修得すること	家庭や社会などの問題を理解したり、解決の方法を学ぶこと	余暇や自由時間を有効にすごすこと	生活を楽しみ、心を豊かにする活動をすること	ボランティア活動をして社会に貢献すること	その他	特に思い浮かぶことはない	無回答
全　体	1295	44.5	38.1	47.0	15.4	11.2	14.0	23.7	48.7	6.1	1.1	2.3	1.5
《性別》													
男性	561	44.0	36.5	47.4	14.8	12.1	13.5	26.7	46.7	5.7	1.2	2.9	1.2
女性	734	44.8	39.2	46.7	15.8	10.5	14.3	21.4	50.3	6.4	1.0	1.9	1.6
《年代別》													
20歳～29歳	158	55.7	20.3	54.4	8.2	20.9	11.4	20.9	41.8	3.8	1.9	4.4	1.3
30歳～39歳	249	44.2	31.3	50.2	7.6	16.9	10.4	21.3	43.0	6.4	1.2	3.6	1.2
40歳～49歳	246	45.9	38.6	56.1	9.8	10.2	12.6	22.8	54.1	4.9	0.8	1.6	0.8
50歳～59歳	298	42.6	43.3	43.3	12.8	7.0	16.8	28.2	57.0	6.0	0.7	1.0	1.7
60歳～69歳	205	35.6	50.7	39.0	29.3	5.9	17.1	26.3	44.9	9.3	0.5	2.4	2.0
70歳以上	139	46.8	39.6	36.7	32.4	8.6	15.1	19.4	45.3	5.8	2.2	1.4	2.2

は各属性で最も高い数値

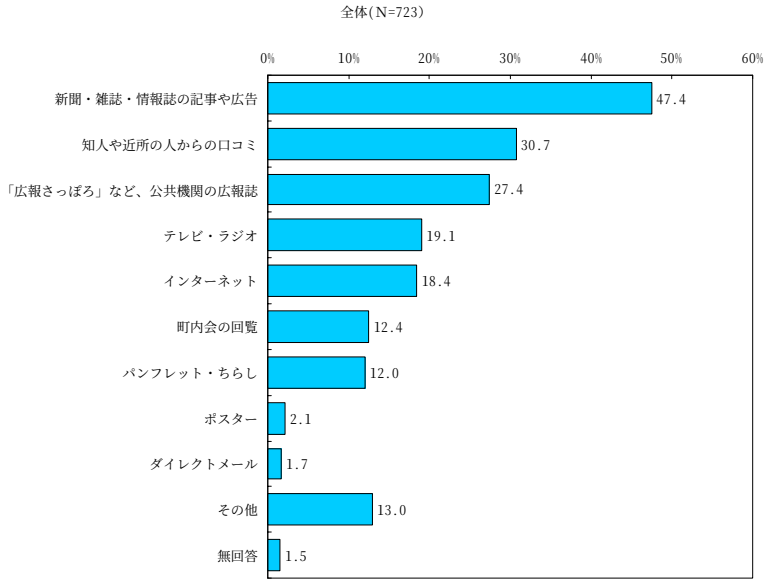
図5-2　現在行っている生涯学習の分野（複数回答）



	サンプル数	芸術・工芸・芸能・音楽に関すること	健康・スポーツに関すること（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	家庭生活に関する実用的なこと（料理、洋裁、編み物など）	外国語・歴史・社会などの教養を高めること	職業上必要な知識・技能の習得や、資格を取得すること	社会問題・市民生活に関すること（少子高齢化、情報化、国際理解、環境など）	社会貢献活動（町内会などの地域活動、ボランティア、ＮＰＯ、市民活動など）	その他	していない	無回答
全　体	1295	14.2	29.7	10.3	6.9	15.4	4.8	10.7	1.9	41.4	2.8
《性別》											
男性	561	11.8	31.0	4.8	7.8	20.7	5.9	10.0	1.8	40.5	2.7
女性	734	16.1	28.6	14.6	6.3	11.3	4.0	11.2	1.9	42.1	2.9
《年代別》											
20歳～29歳	158	15.8	25.3	12.0	9.5	25.3	0.6	1.9	1.3	41.1	1.9
30歳～39歳	249	9.2	20.9	6.8	4.8	18.1	2.4	3.6	1.6	55.0	1.2
40歳～49歳	246	8.5	26.0	6.5	4.9	21.5	3.3	6.1	1.2	45.9	1.6
50歳～59歳	298	13.8	30.2	10.7	6.7	13.4	6.0	13.8	1.3	43.0	2.7
60歳～69歳	205	21.0	41.5	10.7	8.3	5.9	5.4	20.5	2.0	28.8	3.9
70歳以上	139	22.3	38.1	20.1	10.1	6.5	12.9	20.1	5.0	24.5	7.2

は各属性で最も高い数値

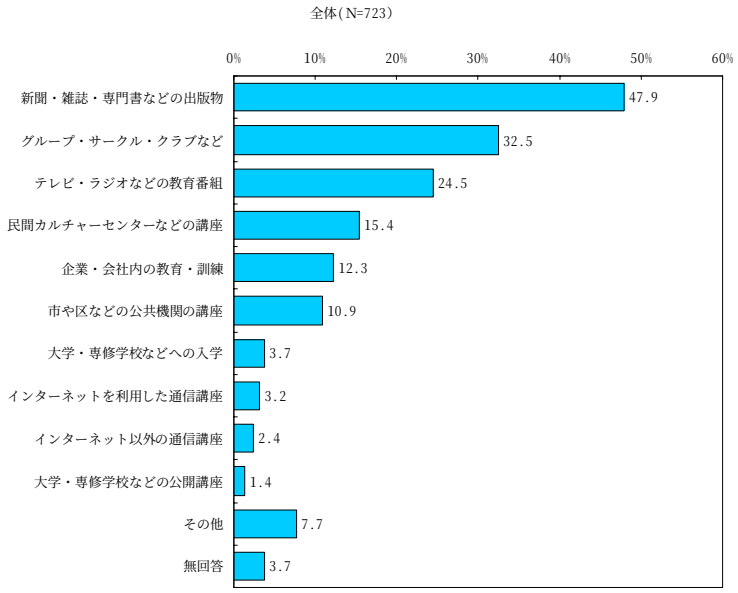
図5-3　生涯学習と結び付けた媒体（複数回答）（生涯学習を行っているという方に対して）



	サンプル数	「広報さっぽろ」など、公共機関の広報誌	知人や近所の人からの口コミ	町内会の回覧	新聞・雑誌・情報誌の記事や広告	パンフレット・ちらし	ポスター	ダイレクトメール	テレビ・ラジオ	インターネット	その他	無回答
全　体	723	27.4	30.7	12.4	47.4	12.0	2.1	1.7	19.1	18.4	13.0	1.5
《性別》												
男性	319	25.4	24.5	11.9	46.4	9.1	1.9	0.9	20.4	23.8	15.7	1.3
女性	404	29.0	35.6	12.9	48.3	14.4	2.2	2.2	18.1	14.1	10.9	1.7
《年代別》												
20歳～29歳	90	7.8	25.6	4.4	36.7	11.1	-	-	15.6	34.4	22.2	1.1
30歳～39歳	109	12.8	29.4	2.8	33.9	13.8	2.8	0.9	12.8	26.6	18.3	0.9
40歳～49歳	129	18.6	30.2	4.7	48.8	11.6	3.1	4.7	17.8	27.9	14.7	0.8
50歳～59歳	162	34.6	33.3	15.4	53.1	13.0	1.9	0.6	16.0	15.4	8.6	-
60歳～69歳	138	37.0	35.5	21.0	50.7	9.4	0.7	2.2	19.6	6.5	8.0	2.9
70歳以上	95	48.4	26.3	24.2	56.8	13.7	4.2	1.1	35.8	3.2	10.5	4.2

は各属性で最も高い数値

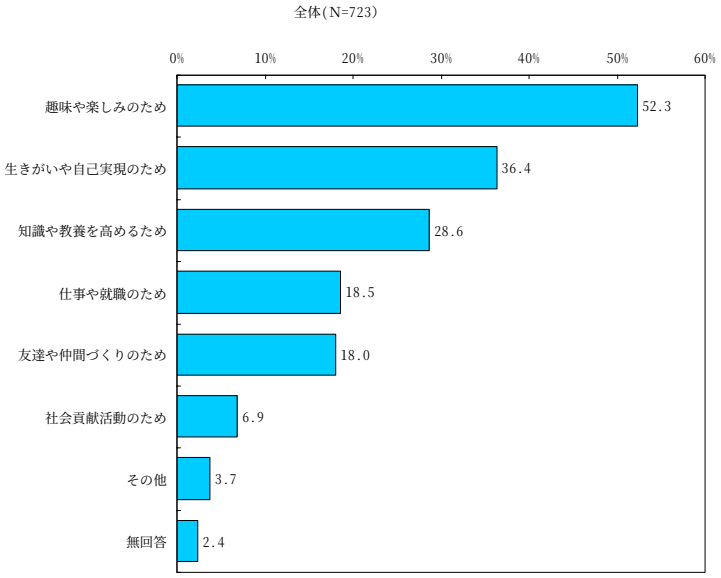
図5-4　生涯学習の方法（複数回答）（生涯学習を行っているという方に対して）



	サンプル数	新聞・雑誌・専門書などの出版物	テレビ・ラジオなどの教育番組	グループ・サークル・クラブなど	民間カルチャーセンターなどの講座	市や区などの公共機関の講座	大学・専修学校などの公開講座	大学・専修学校などへの入学	企業・会社内の教育・訓練	インターネットを利用した通信講座	インターネット以外の通信講座	その他	無回答
全　体	723	47.9	24.5	32.5	15.4	10.9	1.4	3.7	12.3	3.2	2.4	7.7	3.7
《性別》													
男性	319	56.4	25.4	26.6	7.2	6.3	1.6	3.8	18.8	5.0	2.2	8.2	3.4
女性	404	41.1	23.8	37.1	21.8	14.6	1.2	3.7	7.2	1.7	2.5	7.4	4.0
《年代別》													
20歳～29歳	90	43.3	13.3	24.4	11.1	2.2	1.1	17.8	15.6	3.3	2.2	6.7	4.4
30歳～39歳	109	39.4	15.6	25.7	15.6	5.5	1.8	4.6	22.9	1.8	1.8	11.0	3.7
40歳～49歳	129	53.5	20.2	21.7	17.1	9.3	-	2.3	20.2	4.7	6.2	10.9	3.1
50歳～59歳	162	51.9	25.9	35.2	16.7	9.9	1.2	0.6	9.9	3.7	1.9	7.4	1.9
60歳～69歳	138	46.4	25.4	37.0	18.1	18.1	2.2	0.7	5.1	1.4	0.7	6.5	5.1
70歳以上	95	49.5	47.4	51.6	10.5	18.9	2.1	1.1	1.1	4.2	1.1	3.2	5.3

は各属性で最も高い数値

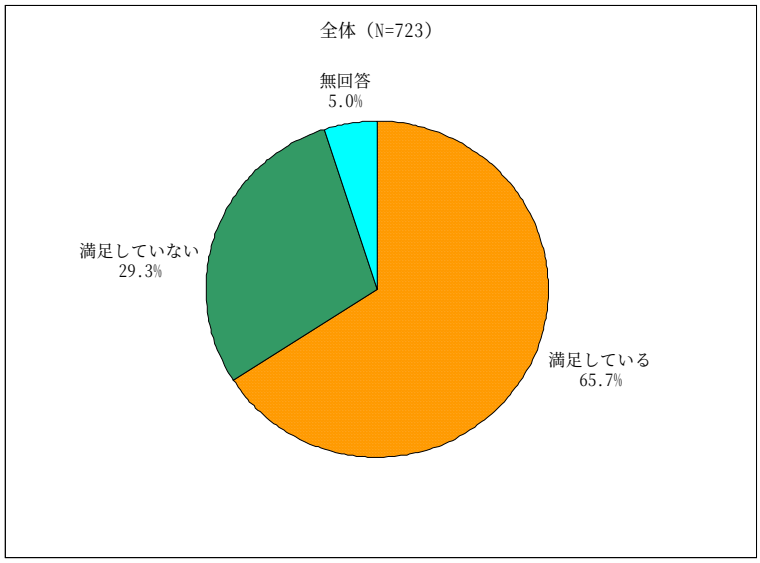
図5-5　生涯学習の目的（複数回答）（生涯学習を行っているという方に対して）



	サンプル数	知識や教養を高めるため	生きがいや自己実現のため	趣味や楽しみのため	仕事や就職のため	友達や仲間づくりのため	社会貢献活動のため	その他	無回答
全　体	723	28.6	36.4	52.3	18.5	18.0	6.9	3.7	2.4
《性別》									
男性	319	27.9	38.6	49.5	23.5	13.8	7.2	4.7	1.9
女性	404	29.2	34.7	54.5	14.6	21.3	6.7	3.0	2.7
《年代別》									
20歳～29歳	90	24.4	33.3	50.0	31.1	15.6	-	7.8	3.3
30歳～39歳	109	36.7	22.0	48.6	28.4	11.0	4.6	5.5	1.8
40歳～49歳	129	34.9	33.3	39.5	31.8	10.9	7.0	2.3	1.6
50歳～59歳	162	25.3	44.4	56.8	14.2	19.1	8.6	3.1	1.9
60歳～69歳	138	18.8	40.6	62.3	5.8	26.1	8.0	2.9	2.9
70歳以上	95	34.7	40.0	53.7	3.2	24.2	11.6	2.1	3.2

は各属性で最も高い数値

図5-6　現在の学習環境に対する満足度（生涯学習を行っているという方に対して）



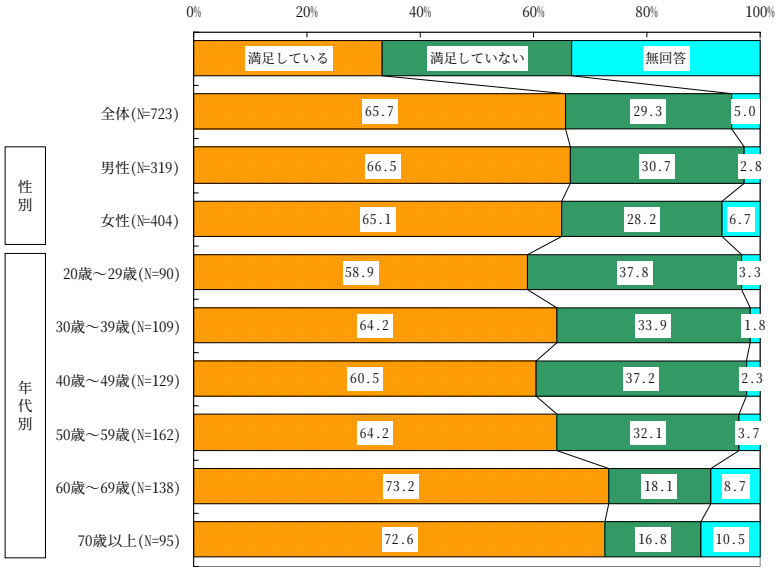
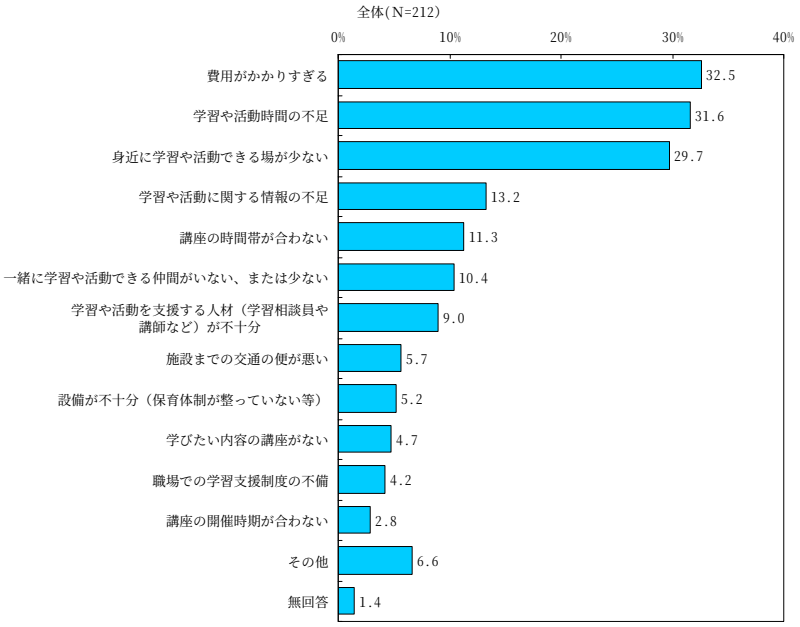


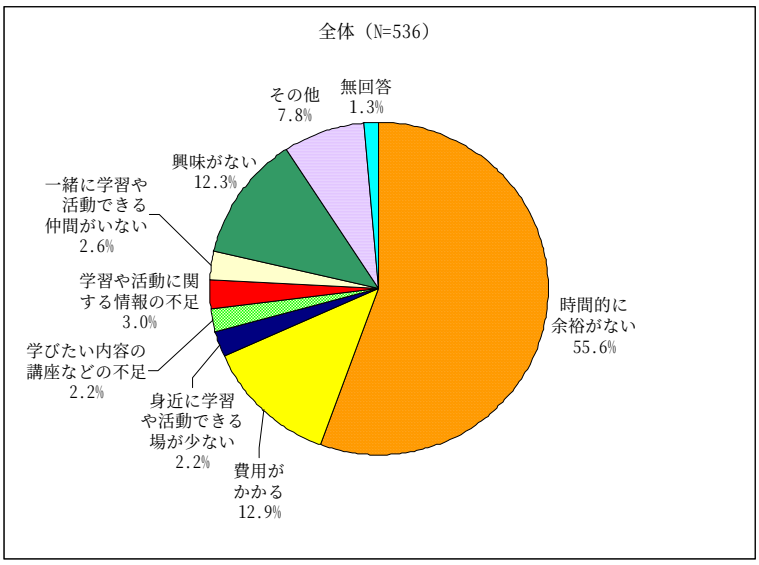
図5-7　現在の学習環境に満足していない理由（複数回答）（満足していないという方に対し



	サンプル数	身近に学習や活動できる場が少ない	設備が不十分（保育体制が整っていない等）	学習や活動時間の不足	学習や活動に関する情報の不足	職場での学習支援制度の不備	講座の開催時期が合わない	講座の時間帯が合わない	学びたい内容の講座がない	施設までの交通の便が悪い	費用がかかりすぎる	学習や活動を支援する人材（学習相談員や講師など）が不十分	一緒に学習や活動できる仲間がいない、または少ない	その他	無回答
全　体	212	29.7	5.2	31.6	13.2	4.2	2.8	11.3	4.7	5.7	32.5	9.0	10.4	6.6	1.4
《性別》															
男性	98	30.6	4.1	33.7	19.4	7.1	2.0	6.1	5.1	5.1	26.5	6.1	12.2	7.1	2.0
女性	114	28.9	6.1	29.8	7.9	1.8	3.5	15.8	4.4	6.1	37.7	11.4	8.8	6.1	0.9
《年代別》															
20歳～29歳	34	20.6	8.8	41.2	11.8	11.8	-	5.9	2.9	-	35.3	8.8	5.9	5.9	-
30歳～39歳	37	43.2	10.8	35.1	10.8	5.4	5.4	5.4	-	-	29.7	8.1	13.5	5.4	-
40歳～49歳	48	18.8	4.2	33.3	12.5	4.2	2.1	10.4	6.3	8.3	41.7	14.6	4.2	2.1	2.1
50歳～59歳	52	30.8	-	32.7	9.6	1.9	3.8	19.2	3.8	7.7	26.9	5.8	13.5	7.7	3.8
60歳～69歳	25	36.0	4.0	24.0	16.0	-	-	12.0	16.0	12.0	28.0	8.0	8.0	12.0	-
70歳以上	16	37.5	6.3	6.3	31.3	-	6.3	12.5	-	6.3	31.3	6.3	25.0	12.5	-

は各属性で最も高い数値

図5-8　現在の生涯学習を行っていない理由（生涯学習を行っていないという方に対して）



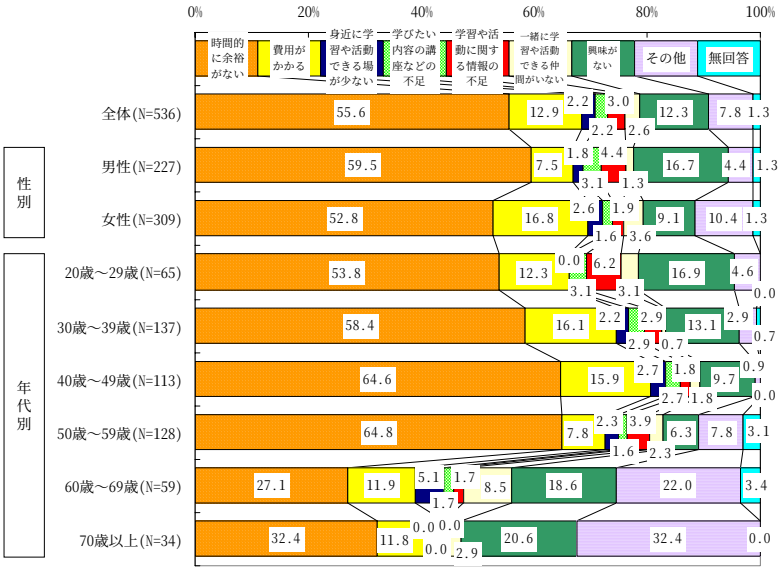
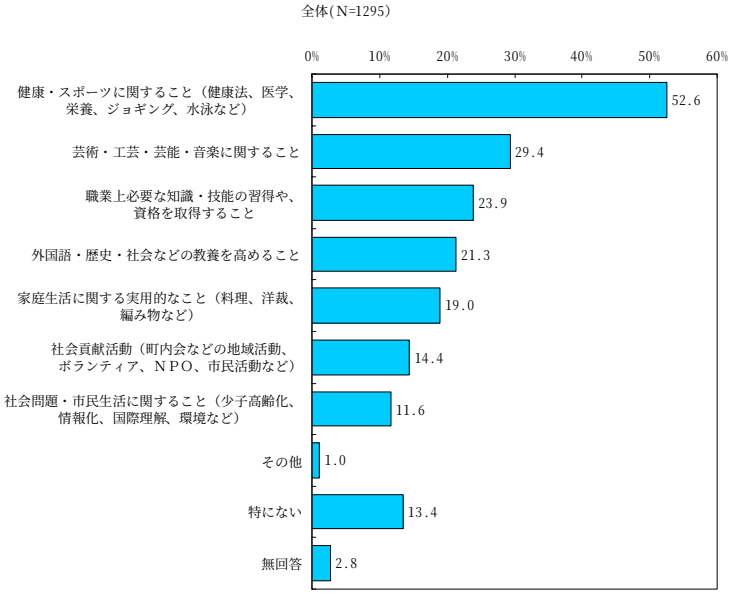


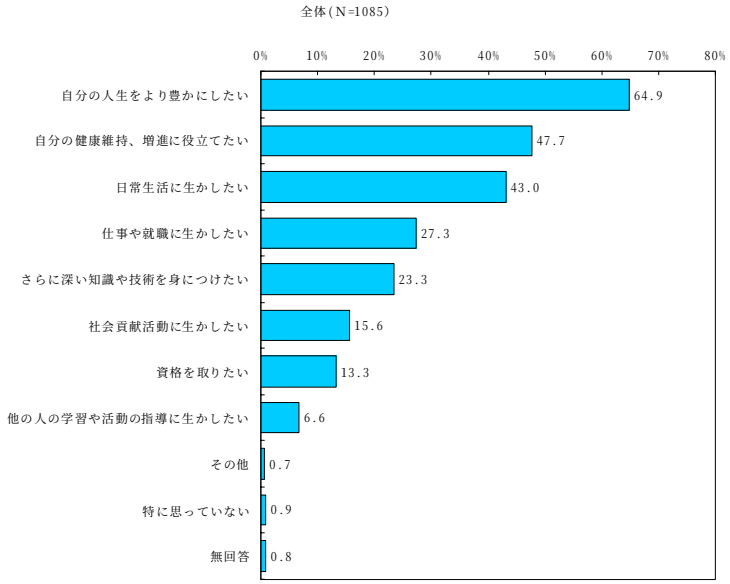
図5-9　今後行いたい生涯学習の分野（複数回答）



	サンプル数	芸術・工芸・芸能・音楽に関すること	健康・スポーツに関すること（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	家庭生活に関する実用的なこと（料理、洋裁、編み物など）	外国語・歴史・社会などの教養を高めること	職業上必要な知識・技能の習得や、資格を取得すること	社会問題・市民生活に関すること（少子高齢化、情報化、国際理解、環境など）	社会貢献活動（町内会などの地域活動、ボランティア、ＮＰＯ、市民活動など）	その他	特にない	無回答
全　体	1295	29.4	52.6	19.0	21.3	23.9	11.6	14.4	1.0	13.4	2.8
《性別》											
男性	561	26.2	50.8	8.7	21.9	28.0	14.3	12.7	1.1	13.5	1.6
女性	734	31.9	54.0	26.8	20.8	20.8	9.5	15.8	1.0	13.4	3.7
《年代別》											
20歳～29歳	158	36.7	53.8	23.4	26.6	44.3	5.7	6.3	0.6	10.1	1.3
30歳～39歳	249	26.1	50.2	19.3	23.7	35.7	8.4	8.4	0.4	15.3	0.4
40歳～49歳	246	30.9	52.0	18.3	25.6	34.6	8.1	10.2	-	12.2	0.4
50歳～59歳	298	31.2	53.4	19.1	20.5	15.4	13.1	17.8	1.3	13.8	2.3
60歳～69歳	205	29.8	60.5	14.1	15.6	6.3	16.1	24.4	1.5	11.7	6.8
70歳以上	139	20.1	43.2	21.6	13.7	5.0	20.1	20.1	2.9	18.0	7.9

は各属性で最も高い数値

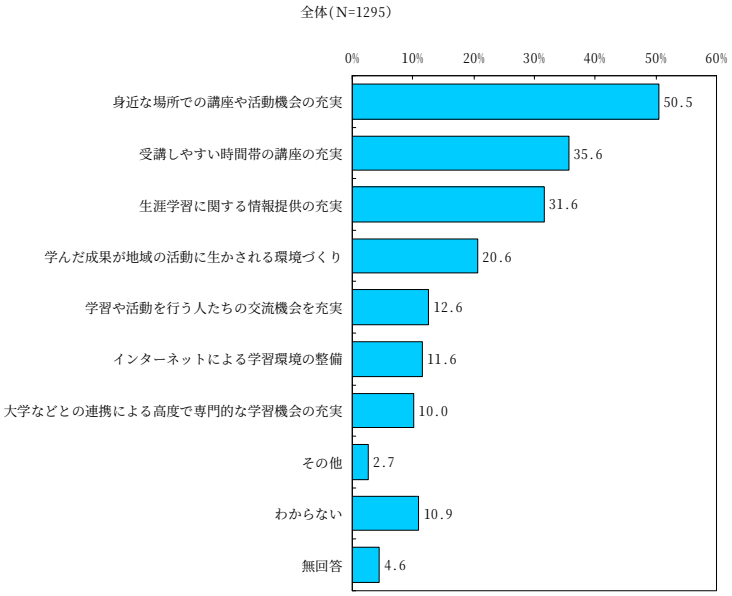
図5-10　学習成果の活用意向（複数回答）（今後学びたいという方に対して）



	サンプル数	仕事や就職に生かしたい	資格を取りたい	日常生活に生かしたい	社会貢献活動に生かしたい	さらに深い知識や技術を身につけたい	他の人の学習や活動の指導に生かしたい	自分の人生をより豊かにしたい	自分の健康維持、増進に役立てたい	その他	特に思っていない	無回答
全　体	1085	27.3	13.3	43.0	15.6	23.3	6.6	64.9	47.7	0.7	0.9	0.8
《性別》												
男性	476	29.0	13.2	34.2	15.8	26.1	6.7	61.6	45.4	0.8	1.3	0.6
女性	609	25.9	13.3	49.9	15.4	21.2	6.6	67.5	49.6	0.7	0.7	1.0
《年代別》												
20歳～29歳	140	55.7	23.6	47.9	5.7	35.7	5.7	62.9	33.6	0.7	2.1	-
30歳～39歳	210	43.8	18.1	34.3	11.0	22.9	7.1	61.4	35.2	0.5	0.5	1.0
40歳～49歳	215	33.5	18.1	37.2	21.9	27.0	9.8	64.2	40.9	-	0.5	0.5
50歳～59歳	250	14.8	10.8	46.8	14.0	19.6	4.8	68.0	52.4	0.8	0.8	2.0
60歳～69歳	167	7.2	3.0	46.1	23.4	17.4	5.4	67.7	69.5	0.6	1.2	-
70歳以上	103	4.9	1.9	52.4	16.5	18.4	6.8	64.1	60.2	2.9	1.0	1.0

は各属性で最も高い数値

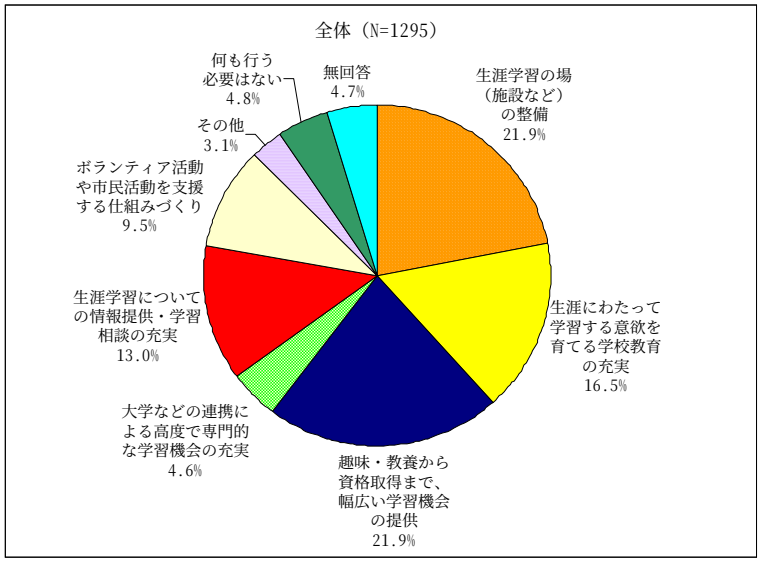
図5-11　生涯学習を行う環境に対する意向（複数回答）

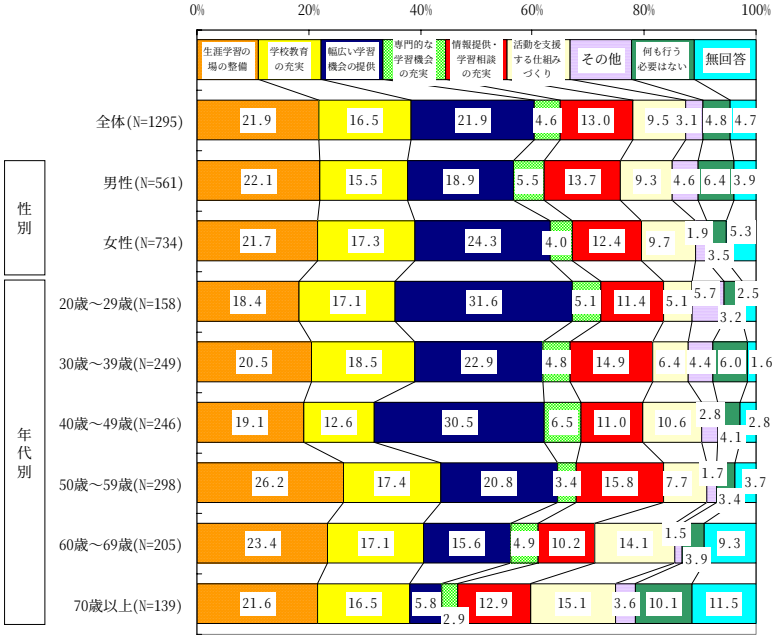


	サンプル数	身近な場所での講座や活動機会の充実	生涯学習に関する情報提供の充実	受講しやすい時間帯の講座の充実	インターネットによる学習環境の整備	大学などとの連携による高度で専門的な学習機会の充実	学習や活動を行う人たちの交流機会を充実	学んだ成果が地域の活動に生かされる環境づくり	その他	わからない	無回答
全　体	1295	50.5	31.6	35.6	11.6	10.0	12.6	20.6	2.7	10.9	4.6
《性別》											
男性	561	44.7	30.3	31.6	15.2	10.2	15.9	20.7	2.7	10.7	3.9
女性	734	54.9	32.6	38.7	8.9	9.9	10.1	20.6	2.7	11.0	5.0
《年代別》											
20歳～29歳	158	44.3	32.9	31.6	20.9	13.9	9.5	17.7	2.5	10.1	1.9
30歳～39歳	249	49.0	22.5	43.0	13.3	10.0	10.8	20.9	5.2	11.6	0.8
40歳～49歳	246	52.8	28.9	44.3	15.4	15.9	13.0	20.7	2.0	8.5	2.8
50歳～59歳	298	55.4	35.6	36.2	10.7	7.4	12.4	21.5	2.0	11.1	4.4
60歳～69歳	205	49.3	34.6	28.8	4.4	7.3	16.6	22.0	2.4	10.7	8.8
70歳以上	139	47.5	38.1	20.1	3.6	5.0	12.9	19.4	1.4	14.4	11.5

は各属性で最も高い数値

図5-12　市が行うべき生涯学習に関する市民の意向（複数回答）





■前回調査比較

◇平成2年3月調査：生涯学習推進構想策定に関する意識調査（全体：N=1,000）
◇平成17年8月調査：平成17年度市政世論調査（全体：N=1,295）

図6-1　現在行っている生涯学習の分野（複数回答）

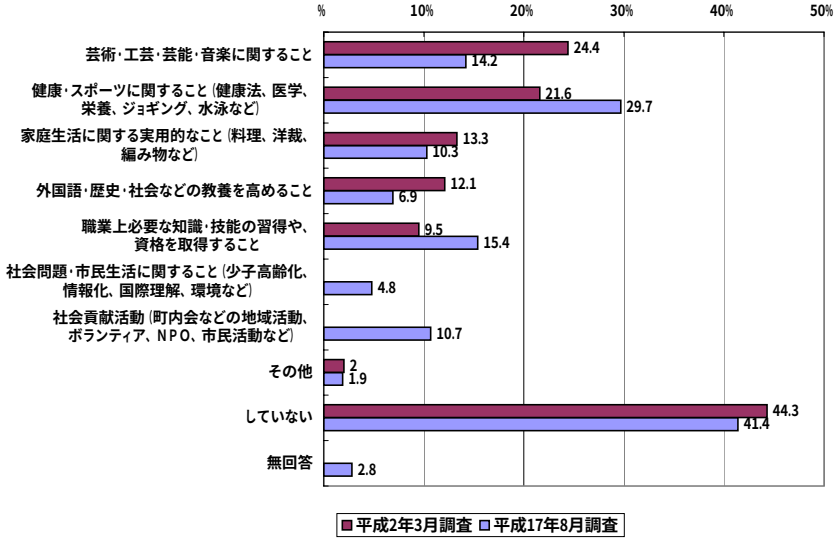


図6-2　生涯学習と結び付けた媒体（複数回答）

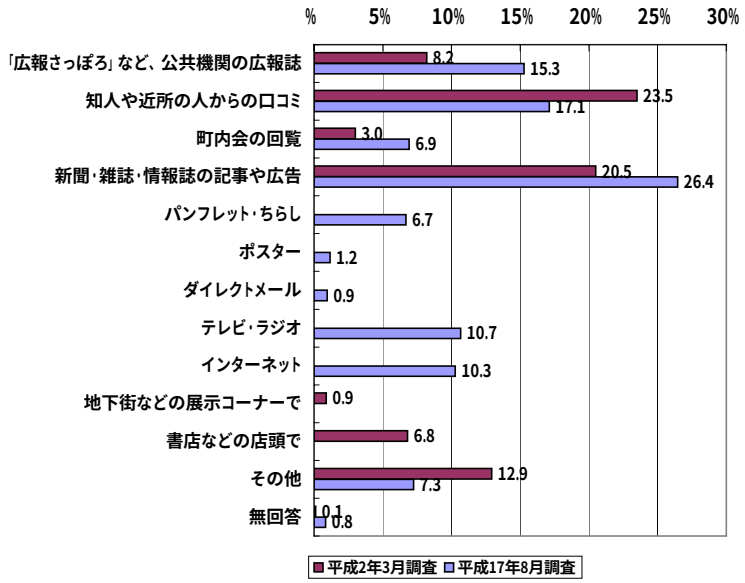
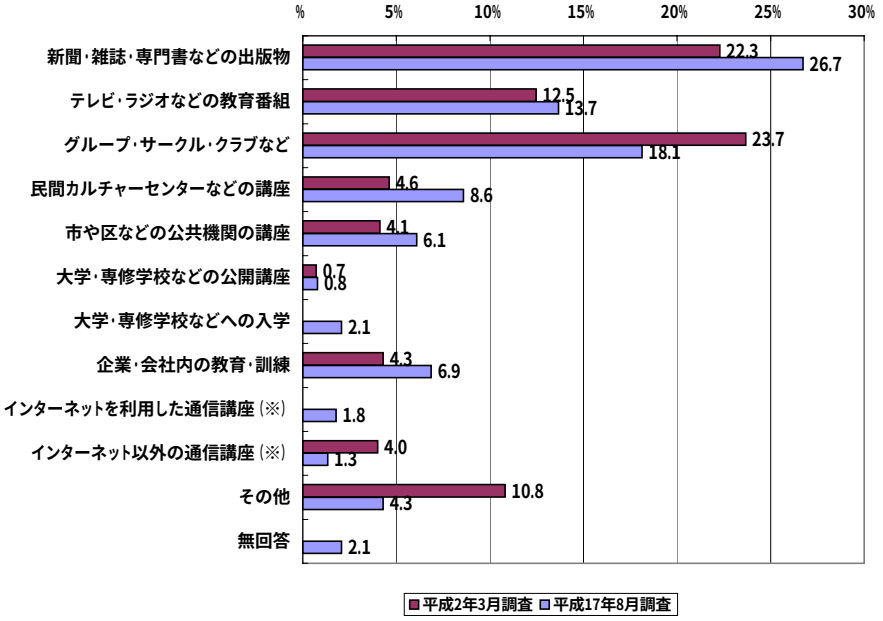
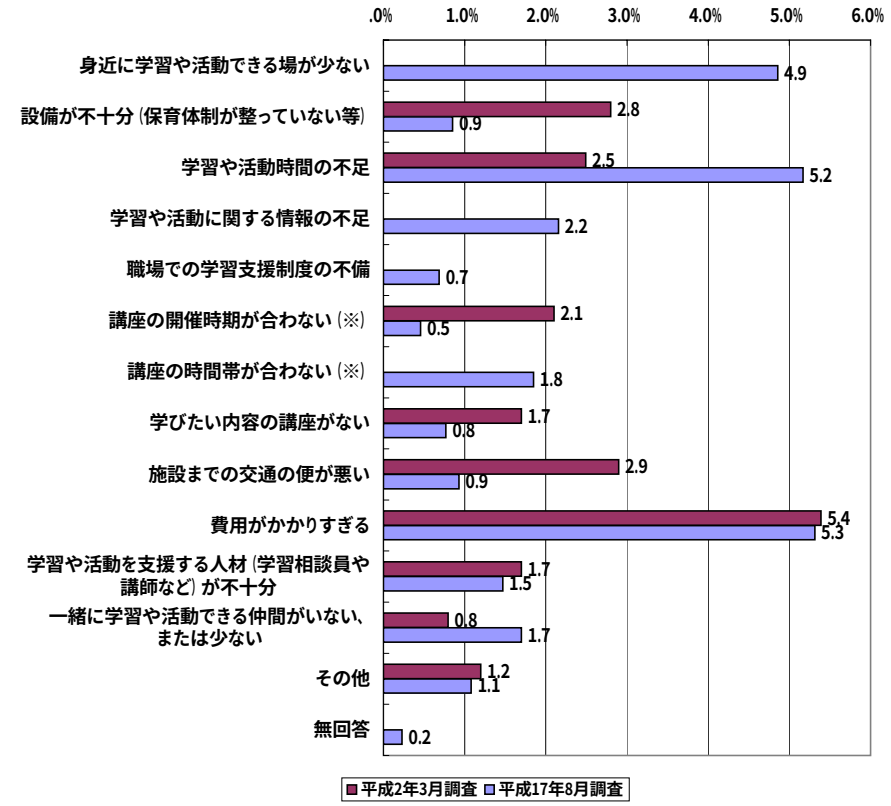


図6-3　生涯学習の方法（複数回答）



※平成2年3月調査ではインターネットでの区別はなく、単に「通信教育を利用」としている。

図6-4　現在の学習環境に満足していない理由



※平成2年3月調査では開催時期、時間帯の区別はなく、「開催の時期や時間が自分にあってない」としている。

■札幌市生涯学習関連機関・団体調査（抜粋）

【調査実施の概要】
◇調査目的　行政以外が実施する生涯学習事業の提供状況を調査し、各機関・団体の意見及び課題を把握することにより、新たな生涯学習推進構想の策定の基礎資料とする。
◇調査期間　平成17年8月下旬～9月下旬
◇実施方法　郵送法（対象機関・団体に調査票を郵送し、返信用封筒で回収する）
◇調査対象　生涯学習事業を実施する以下の機関・団体（送付件数）
①民間教育事業者（カルチャーセンター）：36団体
②札幌圏にあるすべての大学・短大等の高等教育機関：26校
③専修学校・各種学校（「北海道まちかど学園」札幌地区、小樽地区参加校）：15校
④生涯学習に関わる市民活動団体・NPO：83団体
◇回収結果

	送付数	回答数	回収率
カルチャーセンター	36	19	52.8%
高等教育機関（大学・短大）	26	25	96.2%
専門学校・各種学校	15	15	100%
市民活動団体・NPO	83	35	42.2%
合　計	160	94	58.8%

【調査結果の概要】
○回答のあったカルチャーセンター、専門学校・各種学校、市民活動団体・NPOで実施された講座数は、合算で29,096回、参加人数はのべにして299,698人になる。
○大学・短大等の公開講座は、計373コース、参加人数は15,695人であった。
【グラフから】
○事業実施の問題点としては、いずれの機関・団体でも「広報・PR活動が充分でない」との回答が多かった。
○市民活動団体・NPOでは、他に人材や運営費が不足との回答も多くなっている。
○リカレント教育のための大学・短大の各種制度は、前回調査（H6）に比べて全般的に充実しているといえる。（大学院も充実傾向にある）

図7-1　市の生涯学習事業への講師派遣について

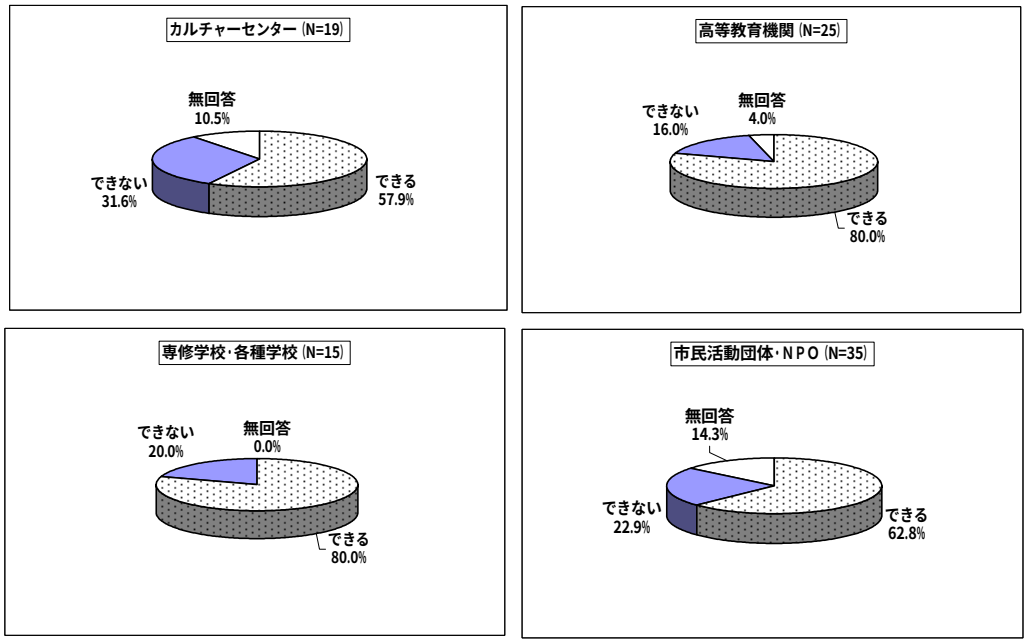


図7-2　配慮して欲しい条件（市への講師派遣）

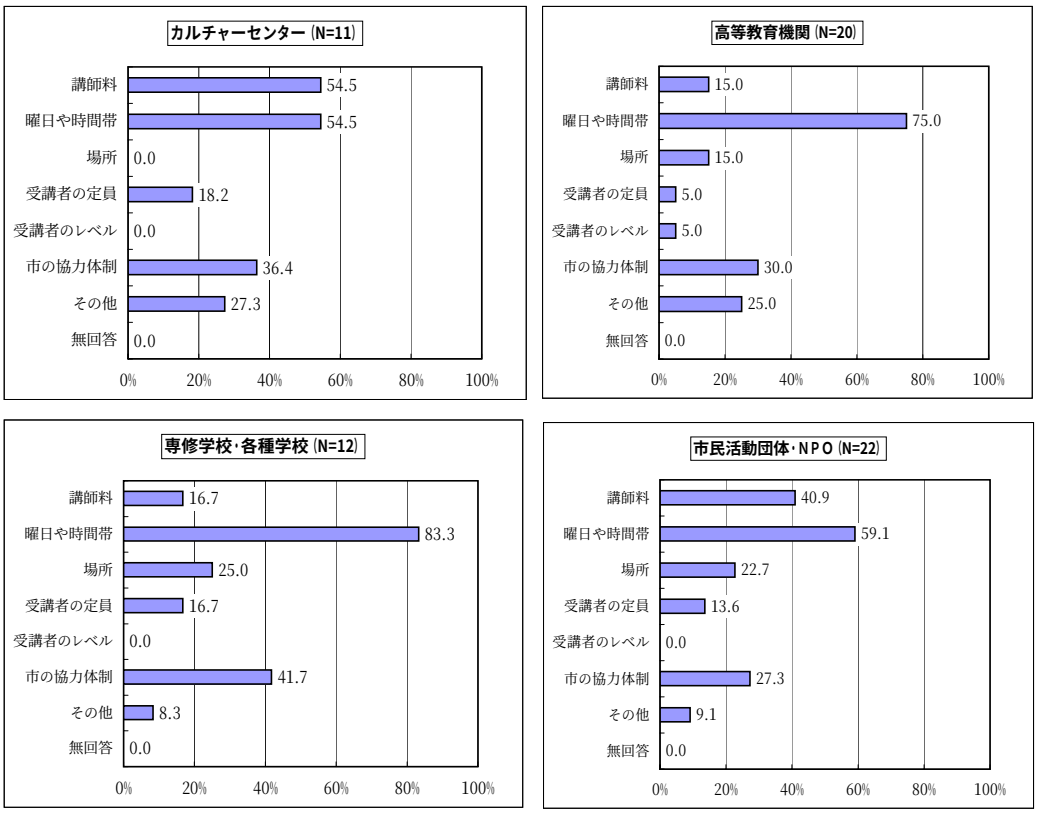


図7-3　事業実施の問題点①

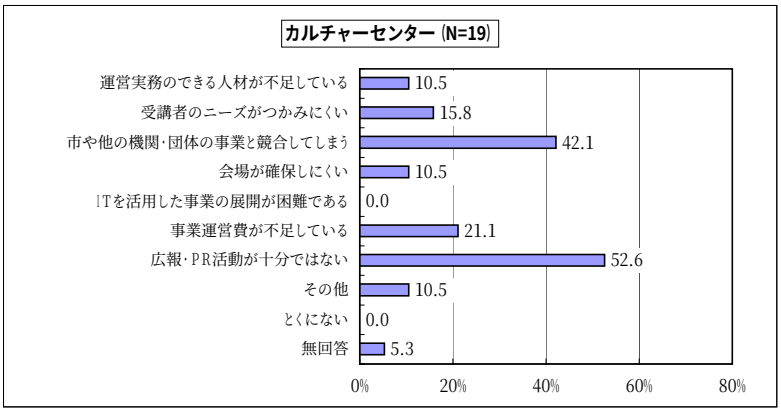
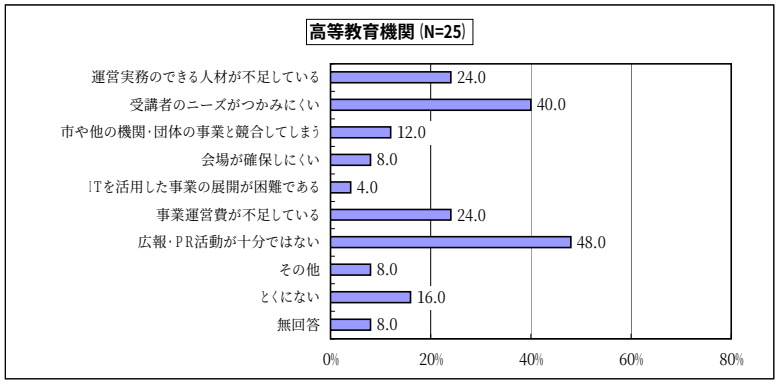
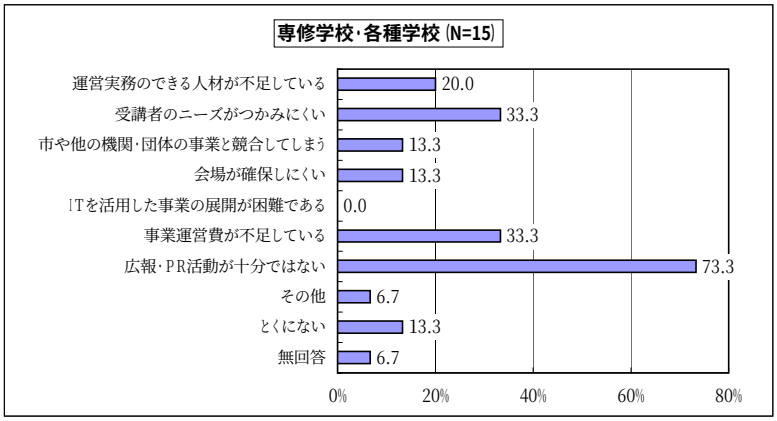


図7-3　事業実施の問題点②





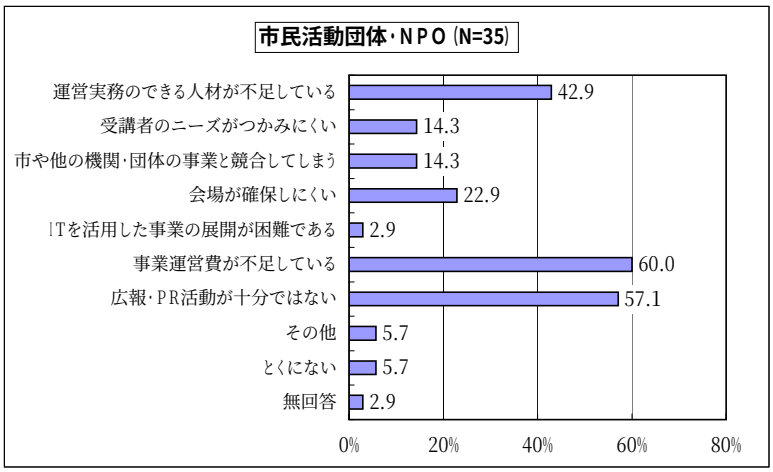
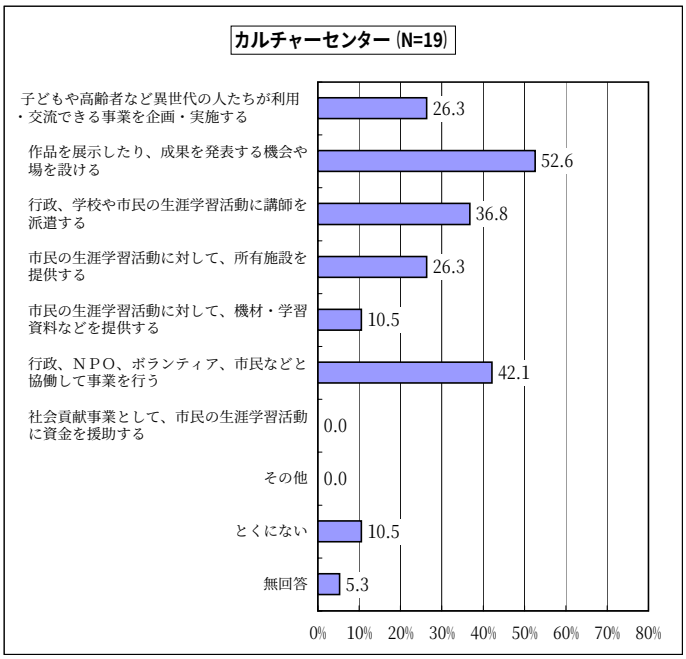


図7-4　地域の教育力向上への対応①



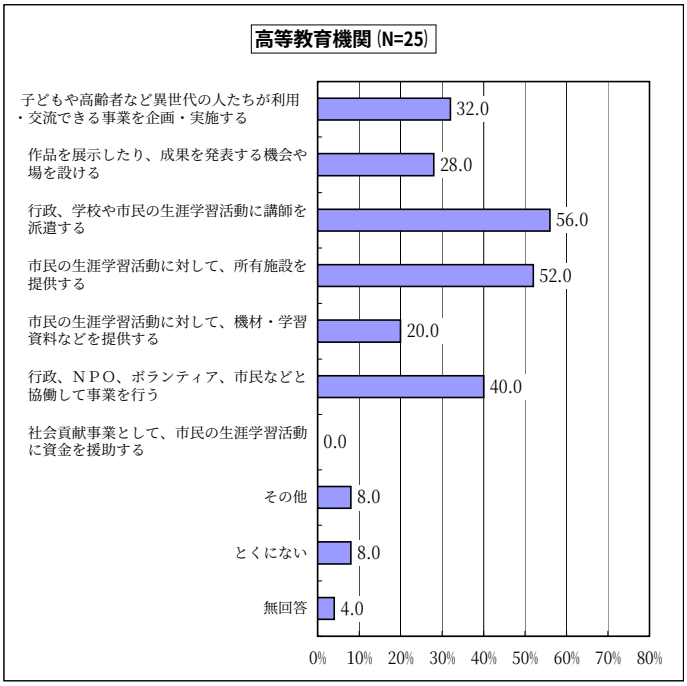
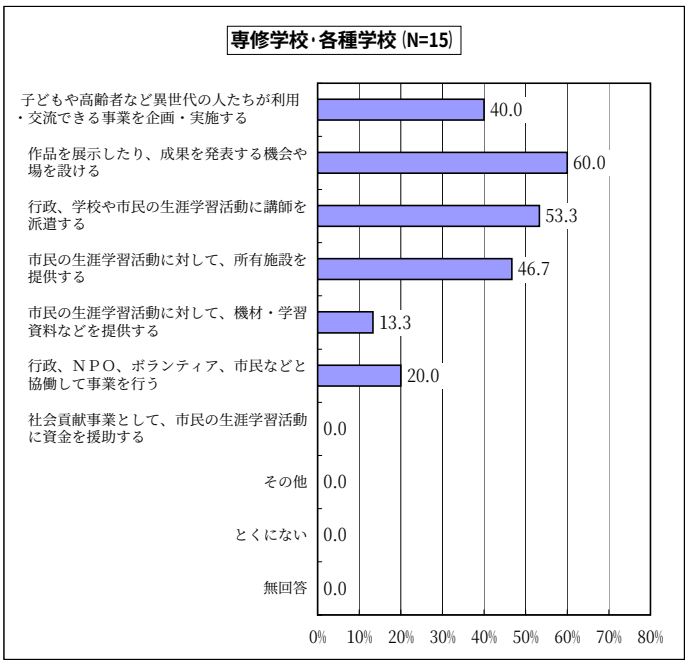


図7-4　地域の教育力向上への対応②



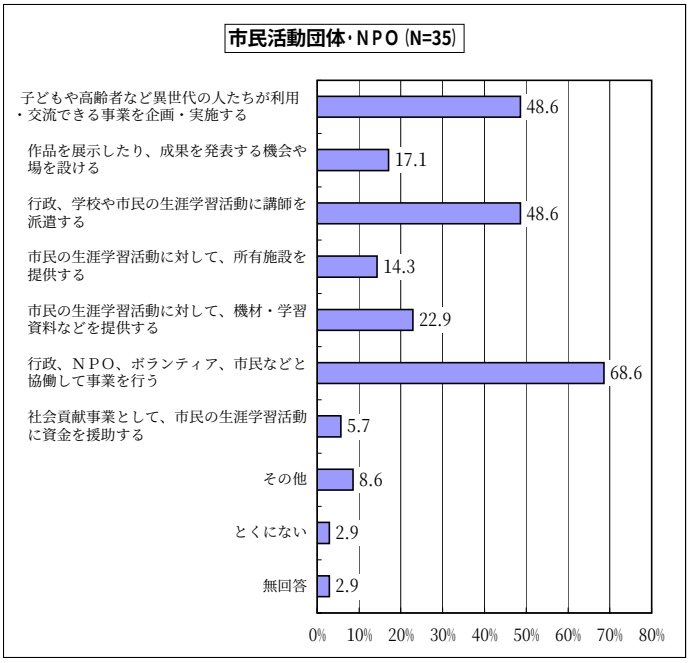


図7-5　「さっぽろ市民カレッジ」講座との連携について

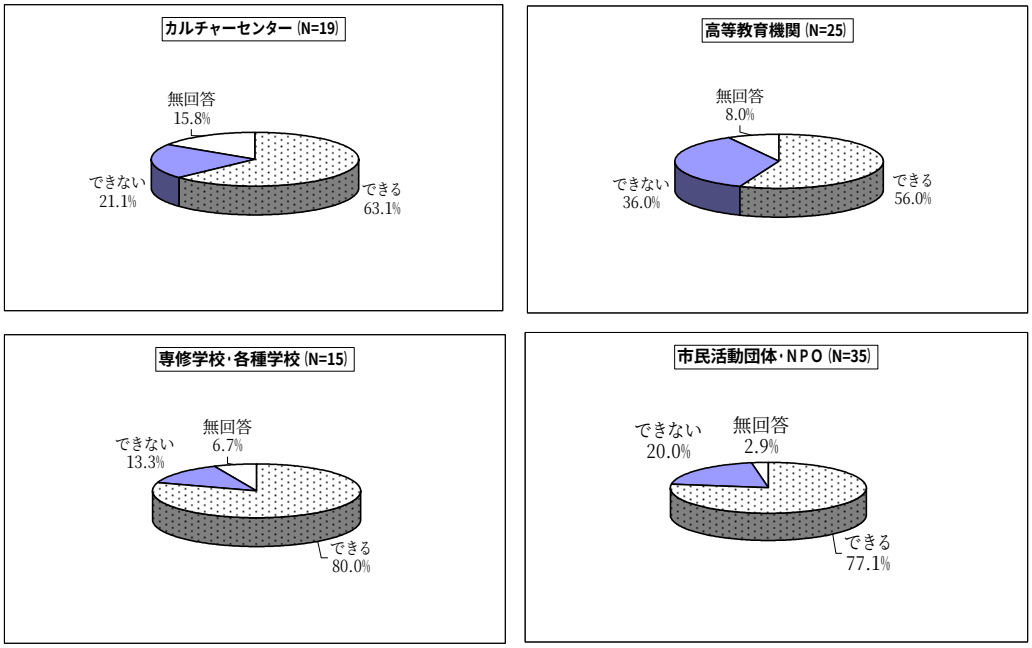


図8　大学・短大の状況①

※平成6年6月の札幌市社会教育委員会議によるリカレント教育調査（N=26）との比較

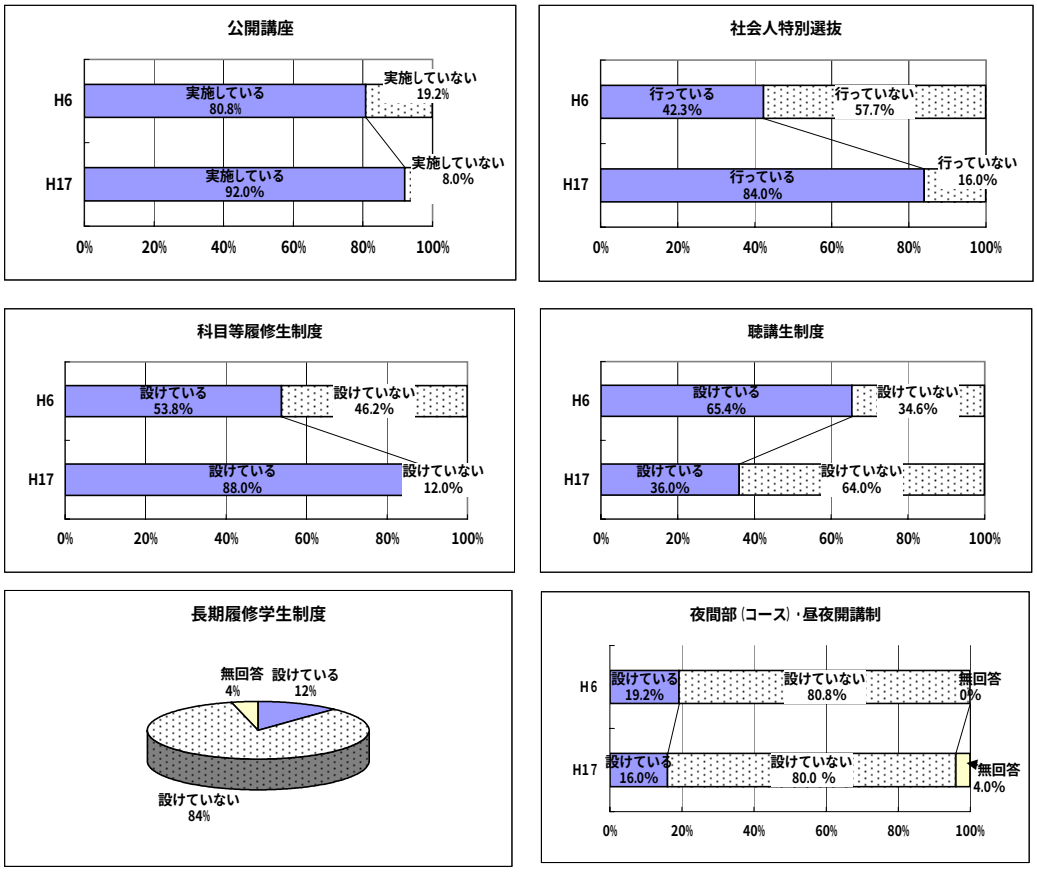
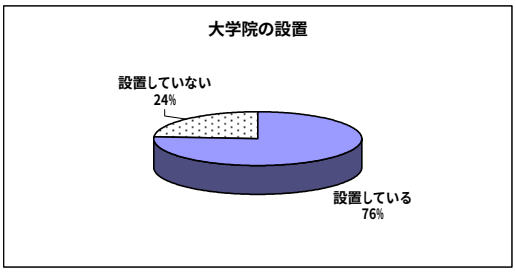
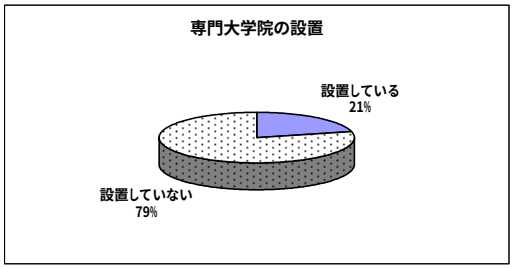
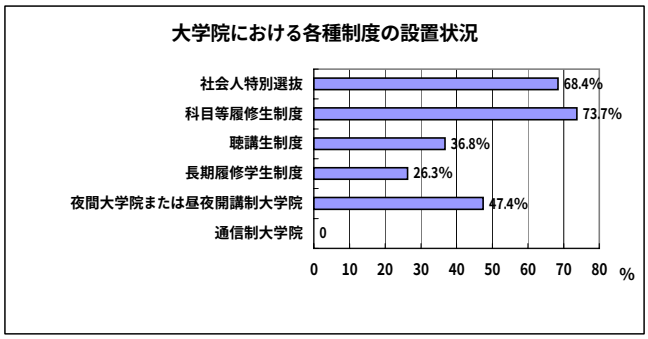
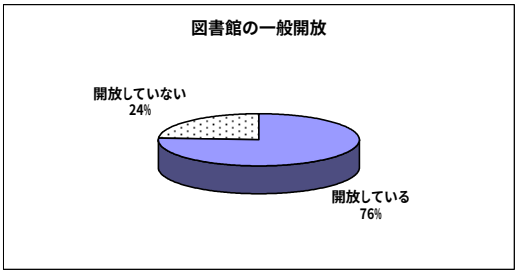


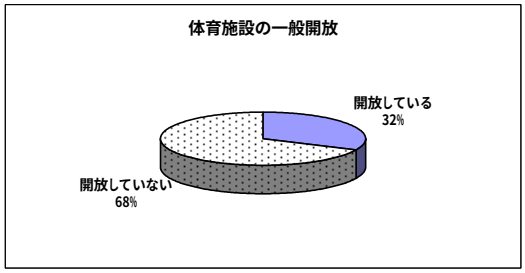
図8　大学・短大の状況②

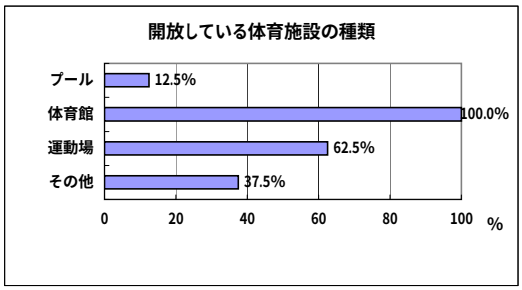

大学院の設置
設置していない
24%
設置している
76%

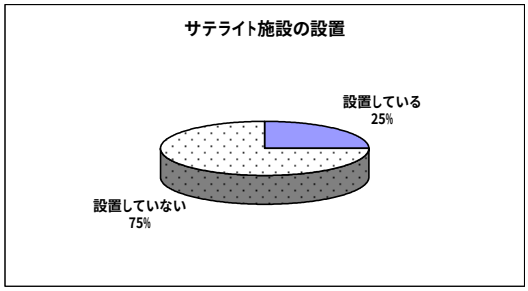

専門大学院の設置
設置している
21%
設置していない
79%

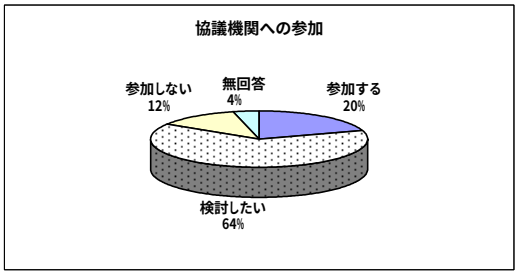

大学院における各種制度の設置状況
社会人特別選抜
68.4%
科目等履修生制度
73.7%
聴講生制度
36.8%
長期履修学生制度
26.3%
夜間大学院または昼夜開講制大学院
47.4%
通信制大学院
0
0 10 20 30 40 50 60 70 80 %


図書館の一般開放
開放していない
24%
開放している
76%


体育施設の一般開放
開放している
32%
開放していない
68%


開放している体育施設の種類
プール
12.5%
体育館
100.0%
運動場
62.5%
その他
37.5%
0 20 40 60 80 100 %


サテライト施設の設置
設置している
25%
設置していない
75%


協議機関への参加
参加しない
12%
無回答
4%
参加する
20%
検討したい
64%

■用語解説

○ **人間力（P3）**

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

○ **新しい「公共」（P3）**

「公共」は、行政だけではなく、様々な担い手により行っていくという考え。

平成 12 年（2000 年）1 月の「21 世紀日本の構想」懇談会の『21 世紀日本の構想懇談会報告書』では、「多様性が基本となる 21 世紀には、自分の責任でリスクを負い、先駆的に挑戦する『たくましく、しなやかな個』が求められる。個が自由で自発的な活動を行い、社会に参画していくことにより、従来の上からの『公共』でなく、個人を基盤とした新たな公が創出される。多様な他者を許し、支え、また、合意には従う公である」と述べている。

○ **ライフステージ（P3）**

ひとの生涯にわたる発達を年齢的特徴により各段階・年代で捉えたときの、それぞれの段階のことを指す。名称、年代の区切りは一様ではないため、本文 13 頁からの区切りは、本市の「健康づくりさっぽろ 21」のライフステージ（幼年期・少年期・青年期・壮年期・中年期・高年期）を基本に、前半の幼年期、少年期については教育課程を考慮した区分けに変更するとともに、高年期については一般的な高齢期に名称を変更した。

○ ICT（IT）（P3）

ICT は情報通信技術（Information Communication Technology）の略で、情報や通信の技術の総称。日本では IT（Information Technology の略：情報技術）の方が普及しているが、国際的には ICT の方が一般的であるため、本編では ICT を使用している。

○ **情報格差（P5）**

パソコンやインターネットなどの情報通信技術（ICT）を使いこなせる者と使いこなせない者との間に生じる、待遇や貧富、機会の格差。個人間の格差の他に、国家間、地域間の格差を指す場合もある。デジタルデバイド（digital divide）。

○ **指定管理者制度（P7）**

平成 15 年（2003 年）9 月の地方自治法改正により、普通地方公共団体が公の施設の管理を他の団体に行わせる仕組みとして、従来の「管理委託制度」に変わって導入された制度。

その目的は、多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図ることとされている。

○ **インターンシップ（P10）**

学生・生徒が、在学中から企業などで、自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験をすること。

○ **「企業の社会的責任」（P10）**

CSR（Corporate Social Responsibility）の日本語訳で、企業の活動に社会的公正や倫理、環境への配慮を取り入れ、消費者、従業員、地域社会等に対して責任ある行動をとるという考え。

○　**「確かな学力」**（P14）

知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等まで含めたもの。

○　**「生きる力」**（P14）

中央教育審議会では、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」と「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」を「生きる力」としている。

○　**キャリア教育**（P15）

望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育のこと。

○　**ワーク・ライフ・バランス**（P15）

仕事と生活の調和。やりがいのある仕事（ワーク：Work）と充実した個人生活（ライフ：Life）が調和したバランスのよい働き方のこと。

○　**ユニバーサルデザイン**（P17）

高齢者や障がいのある人のための特別な仕様をつくるのではなく、最初から多くの人の多様なニーズを反映して作られた製品、建物、環境のデザイン。

○　**コミュニティビジネス**（P22）

地域住民が主体となって、その地域の問題を解決するうえで、地域内の資源を活用しながら継続的なビジネスの形を展開し、地域を元気にしていく事業。

○　**コンソーシアム**（P23）

複数の団体が共通のテーマに取り組む際の連合を指す。大学間の連携としての「大学コンソーシアム」の場合は、大学間相互の結びつき、さらには地域社会、産業との連携の強化を目的に設立される連携組織といえる。

○　**ポータルサイト**（P26）

インターネットに接続したとき、最初に表示してもらうことを目的に作られているページ。ポータル（portal）とは、堂々とした門、入り口などの意。そのページが、各種のサービスなど、インターネット自体の入り口になっている場合をいう。

第２次札幌市生涯学習推進構想

平成 19 年（2007 年）3 月

発行：札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課

〒060-0002　札幌市中央区北 2 条西 2 丁目　STV 北 2 条ビル 4 階

TEL 011-211-3871　FAX 011-211-3873

ホームページ　http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/shogaikyoiku/

市政等資料番号　01-S00-06-1163